

2022年度
こども保育科・こども学ぶ科
講義概要

| | | | |
|------|---------|------|---------------|
| 科目名 | 健康(指導法) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 宮城 亮 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>
 幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する

・「健康」に関する保育内容(①就学前段階の運動あそびの指導・援助、②基本的な生活習慣の形成およびその援助、③健康、安全に関する保育活動)および方法を実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する。

<授業内容>
 幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的な生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。

<学生へのアドバイス>
 ・授業内容に該当する「教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針解説書」の部分をあらかじめ読んでおくこと。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|-----------------------------|----|-------------------------|
| 1 | 健康の概念、保育者・子どもにとっての健康 | 1 | 保育内容・領域「健康」について |
| 2 | 子どもの発達、身体機能・心の発達① | 2 | 食育基本法と食育① |
| 3 | 子どもの発達、身体機能・心の発達② | 3 | 食育基本法と食育② |
| 4 | 発達と基本的な生活習慣の確立① | 4 | 教育要領、保育指針、教育・保育要領の「ねらい」 |
| 5 | 発達と基本的な生活習慣の確立② | 5 | 教育要領、保育指針、教育・保育要領の「ねらい」 |
| 6 | 子どもの生活(子どもの園生活、園生活と遊び) | 6 | 教育要領、保育指針、教育・保育要領の「内容」 |
| 7 | 子どもの生活(戸外環境を生かす、戸外で行う行事や活動) | 7 | 教育要領、保育指針、教育・保育要領の「内容」 |
| 8 | 安全管理と安全教育 | 8 | まとめの課題 |

<成績評価・単位認定基準>

<評価の基準・単位認定の基準>
 課題・提出物(40%)、積極的姿勢・出席(20%)、試験(40%)

<テキスト>
 ・テキストは指定しない、授業中、資料を配布する。

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|------|------|---------------|
| 科目名 | 言語表現 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 宮城 亮 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ①表現技術のひとつとしての言語表現について、基礎知識・技術を習得する。
- ②絵本や紙芝居を中心とする児童文化財に関する基礎知識を習得し、表現力豊かな実演を行うことが
- ③言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。

<授業内容>

保育所保育指針等を踏まえ、子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター等に関する知識と技術を習得し、言語表現と児童文化財等と結びつける遊びの展開を構築する。言語表現にかかわる教材を作成し、子どもの実態、ねらい、内容等のもとに保育の環境構成、具体的な展開等の指導案作成の技術を

<学生へのアドバイス>

日頃から幅広い視点で絵本や物語に親しみ、言語表現の豊かさに触れること。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|------------------------|----|--------------------------|
| 1 | 保育における言語表現の意義 | 1 | 保育と児童文化財②「パネルシアター」の意義と演じ |
| 2 | 保育現場における言語表現 | 2 | パネルシアターの作り方と実践準備 <グループ活 |
| 3 | 「紙芝居」「絵本」の意義と演じ方① | 3 | パネルシアター製作と発表準備 |
| 4 | 「紙芝居」「絵本」の意義と演じ方② | 4 | パネルシアター製作と発表準備 |
| 5 | ペープサートの作り方と実践準備 <グループ活 | 5 | パネルシアター製作と発表準備 |
| 6 | ペープサートの人形製作と発表準備 | 6 | パネルシアターの実践発表 |
| 7 | ペープサートの実践発表 | 7 | パネルシアターの実践発表 |
| 8 | ペープサートの実践まとめ | 8 | パネルシアターの実践まとめ |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

<評価の基準・単位認定の基準>

課題・提出物(40%)、積極的姿勢・出席(20%)、試験(40%)

<テキスト>

・テキストは指定しない、授業中、資料を配布する。

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 教育方法論 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 宮城 亮 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

①教育の方法に関する理論的知識を習得すること。②乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し、説明できること。③②を踏まえ、保育現場における実践を構想できること。

<授業の概要>

乳幼児期の教育の基本原理の理解に重要なテーマについて理解し、子どもたちにとって魅力的な教育活動を計画・実践するための知識と技術を習得する。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

毎回テキストの指定箇所を読んでくること。また、配布資料を含め復習すること。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|--|----|--|
| 1 | 幼児期にふさわしい教育の方法①(保育という方法) | 16 | 保育における評価②(保育の省察と記録) |
| 2 | 幼児期にふさわしい教育の方法②(環境を通しての教育) | 17 | 保育における評価③(外に開かれる評価) |
| 3 | 幼児期にふさわしい教育の方法②(環境を通しての教育) | 18 | Column5子ども理解と「ずれ」の修正 |
| 4 | 幼児期にふさわしい教育の方法③(遊びを通しての指導) | 19 | 幼児期の教育と小学校教育の連関①(小学校との接続・連携) |
| 5 | 幼児期にふさわしい教育の方法③(遊びを通しての指導) | 20 | 幼児期の教育と小学校教育の連関②(遊びと、生活科、総合的な学習) |
| 6 | 幼児の主体的な生活を基盤とする保育①(幼児の主体性の育成と「見えない保育」) | 21 | 幼児期の教育と小学校教育の連関③(教科の萌芽に満ちた遊び) |
| 7 | 幼児の主体的な生活を基盤とする保育②(子どもの主体性と保育者の意図) | 22 | 幼児期の教育と小学校教育の連関④(円滑な接続のための幼少連携) |
| 8 | 幼児の主体的な生活を基盤とする保育③(保育者のさまざまな役割) | 23 | Column6学びの基盤 |
| 9 | Column2「せんせい、大好き」の関係をつくる | 24 | 家庭や地域と連携した保育①(保護者とのパートナーシップ) |
| 10 | 遊びのなかの学びをはぐむ保育①(遊びのなかの学びを規定するもの) | 25 | 家庭や地域と連携した保育②(地域の資源や教育力を活かす保育) |
| 11 | 遊びのなかの学びをはぐむ保育②(感じる・表現する遊び) | 26 | 子どもが好きでないと保育者にはなれない |
| 12 | 遊びのなかの学びをはぐむ保育③(友達と関わって遊ぶ遊び・共通の目的を見だし協同する遊び) | 27 | 保育におけるカウンセリングマインド①(基本的な生活習慣の育ちを支援する) |
| 13 | 方法としてのさまざまな保育形態①(保育形態のタイプ) | 28 | 保育におけるカウンセリングマインド②(子どもの健やかな育ちを支援する) |
| 14 | 方法としてのさまざまな保育形態②(プロジェクト・アプローチ、チーム保育) | 29 | 保育におけるカウンセリングマインド③(園生活に困難を抱える子どもを支援する) |
| 15 | 保育における評価①(保育における評価とは) | 30 | これまでの学びの振り返り |

<評価の基準・単位認定の基準>

積極的姿勢・姿勢(出席)30%、マメテスト20%、試験50%

<テキスト>

「幼児教育の方法」北大路書房、2009年

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | | |
|---|---------------------|------|---------------|--|
| 科目名 | 保育・教職実践演習 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 | |
| | | 開講時期 | 3年次 | |
| | | 授業形態 | 講義 | |
| 担当者名 | 松田恵子 | 単位数 | 1 | |
| | | 時間数 | 15 | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。 ・保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。 ・保育士、幼稚園教諭としての使命感と職務内容について理解する。 | | | | |
| <p><授業の概要></p> <p>この授業では、2年間の学習と実習の成果を振り返りながら、保育士・幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。また、学生自身が主体的に学び自己研鑽に努め、自己の資質・能力を高めることができるよう、演習や発表、グループ討議等を組み合わせて授業を行う。</p> | | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習を確実にし、目的をもって授業に臨むようにする。 ・要求された課題に着実に取り組み、授業中及び予習・復習時間に課題をまとめる。 ・グループ協議や発表・模擬保育等を通して、積極的に保育者として必要なコミュニケーション能力の向 | | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 | |
| 1 | はじめの一步 保育者としての自己分析 | 16 | | |
| 2 | 保育者としての社会的使命と役割 | 17 | | |
| 3 | 幼児期にふさわしい生活と遊び | 18 | | |
| 4 | 遊びを通した総合的な指導 | 19 | | |
| 5 | 環境を通して行う保育 | 20 | | |
| 6 | 子ども理解と保育カンファレンス～演習～ | 21 | | |
| 7 | 一人一人に応じた保育と援助～演習～ | 22 | | |
| 8 | 子ども・保護者との信頼関係の構築 | 23 | | |
| 9 | 家庭・地域・との連携と保幼小の接続 | 24 | | |
| 10 | 保育実践と保育記録～演習・発表～ | 25 | | |
| 11 | 保育実践と保育記録～演習・発表～ | 26 | | |
| 12 | 保育記録と事例研究～グループ討議～ | 27 | | |
| 13 | 安全管理・危機管理 | 28 | | |
| 14 | 保育者の専門性と保育の質の向上 | 29 | | |
| 15 | 子どもの幸せと保育者像 定期試験 | 30 | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> <p>試験及び小テスト:50% 発表・模擬保育:20% 授業への積極的参加及びレポート:30%</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>わかば社「保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み」</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> <p>「幼稚園教育要領解説」文部科学省/著 平成30年3月 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 平成30年3月 「保育所保育指針解説」厚生労働省/編 平成30年3月</p> | | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/>有 ・ 無</p> | | | | |
| <p>実務経験の内容 保育指導法ゼミ 保育内容総論 教育課程総論</p> | | | | |

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 保育・教職実践演習 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| 担当者名 | 松田 恵子 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ・自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。
- ・保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。
- ・保育士、幼稚園教諭としての使命感と職務内容について理解する。

<授業内容>

この授業では、2年間の学習と十週の成果を振り返りながら、スクーリングを通して保育し、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。また、学生自身が主体的に学び自己研鑽に努め、自己のしつ、能力を高めることが出来るよう、グループ協議・発表・模擬保育などを組み合わせて授業を行

<学生へのアドバイス>

事前学習及び事後学習を確実にを行い、目的をもって授業に挑むようにする。要求された課題に着実に取り組み、授業中及び予習・復習時間に課題をまとめる。グループ協議や発表・模擬保育等を通して、積極的に保育者として必要なコミュニケーション能力の向上に努める。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|---------------------|----|---------------------|
| 1 | はじめの一步 保育者としての自己分析 | 1 | 教育課程(全体的な計画)保育内容 |
| 2 | 保育者としての社会的使命と役割 | 2 | 保育内容実践と保育記録～演習・模擬保育 |
| 3 | 幼児期にふさわしい生活と遊び | 3 | 保育内容実践と保育記録～演習・模擬保育 |
| 4 | 遊びを通した総合的な指導 | 4 | 保育記録と事例研究～グループ協議～ |
| 5 | 環境を通した保育 | 5 | 保育記録と事例研究～グループ協議～ |
| 6 | 子ども理解と保育カンファレンス～演習～ | 6 | 安全管理・危機管理 |
| 7 | 一人一人に応じた保育と援助～演習～ | 7 | 保育者の専門性と保育の質の向上 |
| 8 | 家庭・地域との連携の保幼小の接続 | 8 | 子どもの幸せと保育者像 定期試験 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

試験及び小テスト:50% 発表・模擬保育:20% 授業への積極的参加及びレポート:30%

<テキスト>

わかば社「保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み」

<参考書・参考資料など>

- ・「保育所保育指針解説」/平成30年3月 厚生労働省
- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」/内閣府・文部科学省・厚生労働省 平成30年3月
- ・「幼稚園要領解説」/平成30年3月 文部科学省

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|--------|------|---------------|
| 科目名 | 乳児保育 I | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 知花涼子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

子どものあるがままの姿を理解し保育できるように、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。また、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を習得することを目標とする。

<授業の概要>

乳幼児を対象とした発達援助については、様々な専門性が必要とされる。これらの専門性は、「育ちや学びを支える」営みに結び付くものであると同時に、保育者にはその子の一生を担う責任的な役割があることを心得、授業では、乳児保育の意義を明確にし、発達を見通して乳児保育の場の構成について、また、関わり方や保護者対応について論じる。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

インターンシップやボランティア活動を通し、未満児と積極的に関わる。
表情から何を伝えようとしているのか知ろうとする意識をもって関わる。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|----------------------|----|-------------------------|
| 1 | 乳児保育とは何か | 16 | 保護者に対する支援のあり方 |
| 2 | 乳児保育の役割 | 17 | 乳児のことばの発達の道筋 |
| 3 | 乳児保育に関わるねらい及び内容① | 18 | 乳児のことばの発達に必要な力 |
| 4 | 乳児保育に関わるねらい及び内容② | 19 | 地域の子育て支援と一時保育 |
| 5 | 乳児保育に関わるねらい及び内容③ | 20 | 保護者・家庭とのパートナーシップとして |
| 6 | 乳児保育の必要性和現状の実態 | 21 | 乳児とのふれあいの基本を学ぶ① |
| 7 | 乳児院とは/小規模保育と家庭的保育とは | 22 | 乳児とのふれあいの基本を学ぶ② |
| 8 | 地域の小規模保育園を調べる① | 23 | 乳児の排泄への対応(おむつの替え方) |
| 9 | 地域の小規模保育園を調べる② | 24 | 乳児の排泄への対応(トイレトレーニング) |
| 10 | 乳児保育における基本的な援助やかかわり① | 25 | 乳児と基本的な生活習慣(睡眠) |
| 11 | 乳児保育における基本的な援助やかかわり② | 26 | 噛みつきを考える(噛んだ子・噛まれた子の対応) |
| 12 | 乳児保育の環境づくり(室内) | 27 | 乳児保育の方法(担当制を考える) |
| 13 | 乳児保育の環境づくり(屋外) | 28 | 乳児の体(運動能力の発達) |
| 14 | 保育士による保護者支援の必要性 | 29 | 事例を通して保育の専門性を考える① |
| 15 | 保育所における保護者支援の基本と原則 | 30 | 事例を通して保育の専門性を考える② |

<評価の基準・単位認定の基準>

積極的態・姿勢(出席)30%、マメテスト20%、試験50%

<テキスト>

「はじめて学ぶ乳児保育 改訂版」同文書院 2018年

<参考書・参考資料など>

「保育所保育指針ハンドブック」
「発達がわかれば子どもが見える」編著:乳幼児保育研究会

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 知花 涼子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ・乳児保育の理念と歴史的変遷や乳児保育の役割を学ぶ。
- ・乳児期の子どもの発達について学び、その生活や遊びについて理解する。
- ・乳児の沐浴や着替え、排せつ等の対応について学ぶ。
- ・保護者と保育者、関係機関等の望ましい連携について考える。

<授業内容>

乳児保育では生活の安定及び情緒の安定が必然となることから、乳児を取り巻く環境を整える。乳児への適切な配慮・関わり、様々な病気や事故・災害から子どもを守って育てるために、乳児特有の発達の状態・過程を知り、ケアや対処の仕方の意味を理解する。

<学生へのアドバイス>

乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する大事な時期である。それを踏まえ乳児期の発達をしっかりと把握してほしい。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|---------------------------|----|----------------------------|
| 1 | 乳児保育のディリープログラム | 1 | 乳児の遊びを通しての安全配慮(玩具の種類) |
| 2 | 発達に応じたディリープログラムと配慮事項 | 2 | 乳児の一人遊びにふさわしい玩具製作 |
| 3 | 乳児の生活や遊びを支える環境構成 | 3 | 子ども同士の関わりとその援助の実際 |
| 4 | 乳児の発育・発達を踏まえた生活と援助 | 4 | 集団生活のトラブル(かみつき・ひっかき)の配慮と対応 |
| 5 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助 | 5 | 子どもの命を救う救命救急法① |
| 6 | 子どもの心身の健康と情緒安定の配慮:アレルギー・薬 | 6 | 子どもの命を救う救命救急法② |
| 7 | 子どもの心身の健康と情緒安定の配慮:病気の予防 | 7 | 子どもの命を救う救命救急法③ |
| 8 | 各園の乳児保育の実態と様子 | 8 | 乳児保育を発達と保育内容から整理する |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

議題ごとの課題・提出物(40%)、積極的姿勢・出席(20%)、試験(40%)

<テキスト>

「はじめて学ぶ乳児保育 改訂版」同文書院、2018年

<参考書・参考資料など>

「保育所保育指針解説」・「保育所保育指針ハンドブック」
「基本保育シリーズ乳児保育」・「発達がわかれば子どもが見える」

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|--------|------|---------------|
| 科目名 | 保育内容総論 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| 担当者名 | 平良 恵利子 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ① 保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について説明でき
- ② 保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。
- ③ 保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。
- ④ 子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。

<授業内容>

保育所保育指針解説を読み取り、「保育の内容」「保育の方法」を理解することを目指す。グループワーク及び受講生自身が遊びを経験し、遊びと学びの相互性をもって、保育実践を構築しながら批判的に検討できる力の基礎を培う。

<学生へのアドバイス>

保育所保育指針解説、保育所保育指針ハンドブックを解読し、保育現場の雰囲気を知る。ボランティアを通し、子ども達と関わる機会を多くもつことで子どもの実態が見える。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|-----------------------|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション 授業の進め方、評価方法 | 1 | 環境を通して行う保育 |
| 2 | 保育の基本とは | 2 | 生活や遊びを通した総合的な保育 |
| 3 | 子どもたちの現状と課題(基礎知識①) | 3 | 保育の内容を深める遊びや文化財 |
| 4 | 保育園における保育の方法(基礎知識②) | 4 | 個と集団の発達から捉える保育とは |
| 5 | 子どもの発達や生活に即した保育(演習) | 5 | 実際の子どもの姿から学ぶⅠ～DVD鑑賞 |
| 6 | 子どもの発達や生活に即した保育(演習) | 6 | 実際の子どもの姿から学ぶⅡ～DVD鑑賞 |
| 7 | 子どもの主体性を尊重する保育 | 7 | 家庭と地域の連携 |
| 8 | 保育所・幼稚園の1日を知る | 8 | 保育の多様な展開 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

議題ごとの課題・提出物(40%)、積極的姿勢・出席(20%)、試験(40%)

<テキスト>

最新保育講座保育内容総論

<参考書・参考資料など>

保育所保育指針解説、実践に学ぶ幼児の保育(DVD)

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|--------|------|---------------|
| 科目名 | 幼児と言葉 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 平良 恵利子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける。児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身につける。

<授業の概要>

幼児期の言葉の発達の理解や指導について正しい考え方、導き方の根拠を捉える。言葉は幼児期に発達が著しいことを併せ考え、適切な指導や援助により幼児の成長と発達は可能になる。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

保育所保育指針解説の「言葉」の領域の内容に、あらかじめ目を通す。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|----------------------|----|------|
| 1 | 言葉とは・・・「言葉の意義や機能」 | 16 | |
| 2 | 領域「言葉」のねらいと内容① | 17 | |
| 3 | 領域「言葉」のねらいと内容② | 18 | |
| 4 | 言葉の発達と理解 | 19 | |
| 5 | 子どもの発達と言葉の発達(誕生～2歳頃) | 20 | |
| 6 | 子どもの発達と言葉の発達(3歳～6歳頃) | 21 | |
| 7 | 乳幼児期の言葉の特色 | 22 | |
| 8 | 言葉の発達と環境 | 23 | |
| 9 | 言葉の発達の問題を考える | 24 | |
| 10 | 言葉の発達に問題のある幼児の保育 | 25 | |
| 11 | 言葉の育ち(言語発達)を捉える視点① | 26 | |
| 12 | 言葉の育ち(言語発達)を捉える視点② | 27 | |
| 13 | 幼児期の児童文化財を通して育つもの | 28 | |
| 14 | 児童文化財を通しての援助と関わり | 29 | |
| 15 | 保育評価の生かし方 | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

レポートと科目終末試験

<テキスト>

新保育内容シリーズ【新訂】子どもと言葉

<参考書・参考資料など>

保育所保育指針解説・保育所保育指針ハンドブック

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 造形表現(指導法) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 平良恵利子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

周囲の世界を前進の感見審目を通して感じ、身心ともに成長していく幼児期において、共に感動し、表現する保育者も、子どもを育てる大切な環境です。保育者が幼児一人一人の自己表現を受容し、理解できる援助者であることは、幼児の豊かな感性を養うために重要となります。レポート課題では、子どもの身体的発達と幼児画の発達過程の特徴について理解し、子ども一人一人の発達に応じた援助の必要性を学び、成長を見守れる保育者を目指します。また、美術表現技法と表現の理解を深め、子どもとの創作活動に役立つ様々な表現方法の基礎知識を習得します。演習課題においては、色彩基礎演習の制作、感想文の記述を通して、色彩、絵の具の基礎知識と色作りを実体験から学び、幼児教育における造形表現の基礎技能の習得を目指します。

<授業の概要>

造形活動に対する考え方を理解すると共に、学生自身がイメージを持ち、感性を働かせながら表現することの楽しさを実感する。製作過程で培う力や幼児期特有の物の捉え方を学ぶ。製作によって伸長させる能力や材料・用具、保育者の援助や配慮を指導案を作成しながらグループで考え、指導できる力を養

<事前学習及び事後学習>

幼児の好みそうな「新聞あそび」について調べ、作成する。作り方をしっかり覚える。
紙粘土製作に必要な用具を準備し、作成する動物を決め、特徴を抑えておく。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|----------------------|----|------|
| 1 | 造形活動の教育的意義 | 16 | |
| 2 | 造形活動と子どもの特色 | 17 | |
| 3 | 表現形式の特色 | 18 | |
| 4 | 造形指導のねらいと内容(1歳児～3歳児) | 19 | |
| 5 | 造形指導のねらいと内容(3歳児以上) | 20 | |
| 6 | 子どもの発達と造形活動 | 21 | |
| 7 | 子どもの絵の見方と描けない理由とは | 22 | |
| 8 | 造形活動(実践)折り紙を使用し形を作る | 23 | |
| 9 | 造形活動(実践)新聞紙で製作 | 24 | |
| 10 | 造形活動(実践)紙粘土で動物製作 | 25 | |
| 11 | 造形活動(実践)紙粘土で動物製作 | 26 | |
| 12 | 模擬授業を通して指導案作成 | 27 | |
| 13 | 模擬授業を通して指導案作成 | 28 | |
| 14 | 情報機器の活用について | 29 | |
| 15 | 評価の方法 | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

レポートと作品課題を総合評価します。

<テキスト>

「造形表現(指導法)」

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 造形表現(指導法) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| 担当者名 | 平良恵利子 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

幼稚園教育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

<授業内容>

・保育所保育指針に示された保育、幼稚園教育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。
 ・幼児の造形表現の技法、教具の方法、安全面への配慮等、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法、グループワーク模擬保育を行い、振り返り反省課題を持ち、次へと活かせるようにする。

<学生へのアドバイス>

・表現方法が様々あることを知り、自分なりの表現方法を見つけ視野を広く持てるように心がける。
 ・乳幼児期の5領域「表現」事例を交えながら理解し、子ども目線に合わせ指導案作成し試行錯誤する。

| 時間 | 授業計画(1日目) | 時間 | 授業計画(2日目) |
|----|------------------------------------|----|-------------------------------|
| 1 | 保育所保育指針解説「表現」ねらい及び内容(乳児～3歳未満)の理解 | 1 | 「造形表現」に適した安全な教具と用具の活用と理解、留意点 |
| 2 | 保育所保育指針解説「表現」ねらい及び内容(3歳以上)の理解 | 2 | 指導案の構成、具体的な保育を想定した指導案内容と作成の理解 |
| 3 | 事例を通して「表現」の捉え、指導上の留意点の理解・「造形表現」の理解 | 3 | 指導案の構成、具体的な保育を想定した指導案内容と作成の理解 |
| 4 | 保育、幼稚園現場で用いる造形遊びの種類、指導上の留意点 | 4 | 指導案作成、模擬保育を行う為の製作物作成 |
| 5 | 「造形と表現」実体験からの創作と自己表現 | 5 | 指導案作成、模擬保育を行う為の製作物作成 |
| 6 | 「造形と表現」実体験からの創作と自己表現 | 6 | 指導案を基に、各グループでロールプレイング |
| 7 | 「造形と表現」実体験からの創作と自己表現 | 7 | 指導案を基に、各グループでロールプレイング |
| 8 | 作品発表 | 8 | 模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点への理解、試験 |

<成績評価・単位認定基準>

・講義ごとの課題、提出物(40%) ・講義への意欲姿勢(20%) ・試験(40%)

<テキスト>

・造形表現(指導法) 近畿大学九州短期大学

<参考書・参考資料など>

・保育所保育指針解説 厚生労働省 ・保育所保育指針ハンドブック Gakken

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 教育原理 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| 担当者名 | 大城 尚志 | 授業形態 | 授業 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

①教育の本質・意義・機能に関する理論や知識を習得すること。②現代社会における教育の諸課題について考察する力を身につけること。③幼児期の教育の基本原則とその特徴を理解すること。

<授業の概要>

教育の基本的概念・理念・思想・学校の役割及び教育政策について学び、それらの歴史的変遷や今日の課題に関する基礎的知識を習得する。また、現代公教育制度及び学校現場の課題等に関して、教育法規や制度による根拠や動向を理解し考察する。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

教科書をよく読み、現代の幼稚園・保育園・子育て・地域に関わる課題に関心を持ち、自分自身の意見や課題意識を持って講義に臨んでください。講義では、討論や質疑応答に積極的に参加し、一緒につくり上げる時間になることを期待します。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|--------------|----|------------------|
| 1 | 教育の概念 | 16 | 教育方法の基礎 |
| 2 | 教育の目的 | 17 | 求められる能力の変化 |
| 3 | 教育と家族 | 18 | 乳幼児期における教育方法 |
| 4 | 子供観の変遷 | 19 | 教育内容の基礎 と実際 |
| 5 | 近代幼児教育思想 | 20 | 教育の計画と評価 |
| 6 | 日本の幼児教育 | 21 | 乳幼児期の教育内容と計画・評価 |
| 7 | 教育制度の成立と幼児教育 | 22 | 生涯学習の概念と理念 |
| 8 | 戦後教育改革 | 23 | 生涯学習の推進と動向 |
| 9 | 保育者養成制度の確立 | 24 | 地域社会における生涯学習の展開 |
| 10 | 教育法規 | 25 | 学びの場の多様化 |
| 11 | 教育行政 | 26 | 教員養成・保育者養成 |
| 12 | 乳幼児期の教育 | 27 | 学校安全への対応と教育の情報化 |
| 13 | 諸外国の学校体系 | 28 | 連携の考え方 |
| 14 | 乳幼児期教育の国際状況 | 29 | 家庭福祉・就学前と小学校との連携 |
| 15 | 諸外国の保育実践 | 30 | 教育・保育現場と地域との連携 |

<評価の基準・単位認定の基準>

レポート 40%
科目終末試験 60%

<テキスト>

「保育のための教育原理」

<参考書・参考資料など>

授業で紹介、もしくは配布

実務経験の有無 有 ・ 無

実務経験の内容

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 教育心理学 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 大城 順子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

子どもたちの最も近くに居る者の一人として、子どもが学び育つということの意味を学び、子どもへの関わり手としての基礎的な態度を養うことが主題である。そのために①発達論、学習論の基礎的知識を修得し、②幼児期にある子どもの生活を、理論的に捉えて支え、学びと探求を十全に展開させるための基本的な態度の基礎を形成することを到達目標とする。

<授業内容>

保育教育従事者を目指す者として、動物的存在から人間へと成長する幼児期の成長過程を理解し、考えていく姿勢を養うことを目指す。

<学生へのアドバイス>

授業やテストで得た知見をきちんと理解し、それを活かすために報告文やレポートにまとめる能力を身につける努力をすること。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|-----------------|----|----------------------|
| 1 | 教育心理学とは | 1 | 子どもの発達(動物から人間へ) |
| 2 | 保育に生かす教育心理学 | 2 | レポート(「母子関係」についてまとめる) |
| 3 | 教育心理学の方法① | 3 | 愛着とその形成 |
| 4 | 教育心理学の方法② | 4 | レポート(「母性」についてまとめる) |
| 5 | 授業やテキストで理解した知見を | 5 | 言葉の獲得 |
| 6 | まとめる力の養成 | 6 | 人と人との関係 |
| 7 | 課題をまとめてレポートを書く | 7 | 養育者への愛着・仲間関係 |
| 8 | 課題に沿ってレポートを書く | 8 | 運動機能の発達 |
| | | 9 | 試験(レポート) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

①授業への出席と積極的参加(30%) ②レポートや課題の提出(30%) ③試験(40%)

<テキスト>

「保育に生かす教育心理学」(株)みらい 2008年

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|--------|------|---------------|
| 科目名 | 幼児の心理学 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 大城 順子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>
 心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を生かせるようになることを教育目標とする。人はどのように学習を行っていくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学ぶ。また、心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。

<授業の概要>
 本講座は子どもの発達と学習の課程を学ぶ。多様な社会環境の中で子どもたちがいかに学び育っていくか。また、周囲の大人はそれをどのように支えていくか考える。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>
 ①事前にテキストに目を通してくること。②日常生活の中で子どもに接する場合、何かしら気が付いたことがあれば常に心にとめておくように努めること。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|--------------------|----|------|
| 1 | 子どもの発達(自我意識・言語・認知) | 16 | |
| 2 | 遊びと発達、学習行動の基礎 | 17 | |
| 3 | 学習行動の基礎、知識の獲得 | 18 | |
| 4 | 学びの動機づけ | 19 | |
| 5 | 知能とは何か | 20 | |
| 6 | 知的能力の発達と測定 | 21 | |
| 7 | パーソナリティの発達と適応 | 22 | |
| 8 | 教育評価の概念 | 23 | |
| 9 | 保育における評価の観点と方法 | 24 | |
| 10 | 発達障害の子ども保育と特徴 | 25 | |
| 11 | 発達障害の子ども保育とその対応 | 26 | |
| 12 | 保育に生かす教育心理学、集団づくり | 27 | |
| 13 | 幼・保・小連携の概念 | 28 | |
| 14 | 学びや育ちの多様性、家庭への支援 | 29 | |
| 15 | 子どもをめぐる教育の問題 | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>
 ①授業への出席・積極的参加(30%) ②課題やレポートの提出(30%) ③試験(40%)

<テキスト>
 伊藤健次編『保育に生かす教育心理学』(株)みらい 2008年

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|------------------------|------|---------------|
| 科目名 | 幼児と音楽表現 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 伊佐奈津代、知花賢招、屋嘉比和賀子、大崎正和 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

・歌声の出し方の基礎作り・器楽(ピアノ)の基礎的な演奏法の理解と実践・音楽理論の基礎を理解し、読譜ができるようになる。・教育現場で必要な子どもの歌を歌い弾きするためのレパートリー作り

<授業内容>

子どもの歌やコールユーブンゲン、コンコーネなど声楽練習曲を歌うことにより、歌唱の基礎(音程・リズム)作りをする。音楽理論の基礎学習を行い、読譜や簡単な曲の構成を学ぶ。ピアノはバイエル等教則本を学生の力量に合わせたレッスンの形態で行い、音楽表現の向上を図る。また、教育現場で必要な弾き歌い楽曲を演習しテストを行う。

<学生へのアドバイス>

歌、ピアノともに練習には多くの時間を必要とします。特に初心者は基礎の積上げに費やす時間が必要で、授業外時間にも開放されているピアノ練習室での予習・復習を促し、スマートフォンなどにより撮影した模範演奏及び演奏のポイント指導動画を活用して、授業以外の時間における自主学習が有益に行えるようにフォローを行う。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|-------------------------|----|-------------|
| 1 | 発声の基礎演習 | 1 | ピアノ演奏法基礎演習 |
| 2 | 音楽理論基礎(読譜)演習(コールユーブンゲン) | 2 | 選択演習 |
| 3 | 母音唱法基礎演習(コンコーネ) | 3 | 子どもの歌弾き歌い演習 |
| 4 | 実技試験1 | 4 | 実技試験 |
| 5 | 実技試験2 | 5 | ステップアップ演習 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<成績評価・単位認定基準>

<テキスト>

「音楽(声楽教本)」「音楽(ピアノ教本)」、適宜プリントを配布

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有・無

実務経験の内容

| | | | |
|--|---|------|-----------------------------------|
| 科目名 | 音楽表現技術 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 伊佐奈津代、知花賢招、屋嘉比和賀子、大崎正和 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |
| <p><到達目標></p> <p>・「幼児と音楽表現」での学修を元に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得する。</p> <p>・教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。</p> | | | |
| <p><授業内容></p> <p>現場で使える子どもの歌のレパートリーを増やし、より実践的なアプローチを図る。音楽理論もより深い内容に進み、音楽技術と表現技術の向上を図る。又、進度により学生、各々のフォローアップを図る。</p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス></p> | | | |
| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
| 1 | 発声法練習 | 1 | ピアノ演習法演習へ、ト、ニ長調の音階練習 |
| 2 | 音楽理論演習コールユーブンゲン24, 25, 26, 27, 28, 30, 31, 32, 33 | 2 | テキスト中にあるバイエルやマーチ課題を学生の力量に合わせて選択演習 |
| 3 | 母音唱法基礎演習コンコーネ4, 5, 6 | 3 | 子どもの歌弾き歌い演習 |
| 4 | 実技試験1:コールユーブンゲン演習課題より選択実施 | 4 | 実技試験 |
| 5 | 実技試験1:コンコーネ演習課題より選択実施 | 5 | フォローアップ。次年度の実習に向けたステップアップ |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「音楽<声楽教本>」「音楽<ピアノ教本>」</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> <p>適宜配布</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 有・無</p> | | | |
| <p>実務経験の内容</p> | | | |

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 人間関係(指導法) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 伊徳 清包 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ・領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。
- ・子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。

<授業内容>

子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び、意義を学習する。「良好な人間関係づくり」理論と方法を習得する。

<学生へのアドバイス>

幼稚園教育要領及び保育指針の領域「人間関係」を熟読する。カウンセリング理論、(自己理論、交流分析)、心理検査、構成的エンカウンターを理解を深める。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|-------------------|----|--------------------|
| 1 | 領域「人間関係」の観点 | 1 | 心理テスト、コラージュ、描画等 |
| 2 | 領域「人間関係」のねらいと内容 | 2 | ロールプレイ、禁止令と性格 |
| 3 | カウンセリング理論(自己理論) | 3 | NLP、カウンセリング技法 |
| 4 | TA(交流分析)エゴグラム、生育歴 | 4 | 集団心理、子どものコミュニケーション |
| 5 | 人生脚本、破壊的人生脚本 | 5 | 他者理解、発達障害児の理解 |
| 6 | 事例研究(保育実践) | 6 | 保護者の役割と指導について |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<成績評価・単位認定基準>

授業への積極的参加(発表等)30%、試験(小テスト)70%

<テキスト>

マイクロカウンセリングの技法・実践編、交流分析(ウィキペディア)

<参考書・参考資料など>

来談者中心療法、構成的エンカウンター、(教育カウンセラー初級テキスト)

実務経験の有無 有 無

| | | | |
|------|---------|------|---------------|
| 科目名 | 幼児と人間関係 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 伊徳 清包 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

①幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。②子どものライフコースにおける人と関わる力の重要性を理解する。③子どもの自立性と集団のなかでの育ちについて理解し、支え合う仲間集団の条件を理解する。

<授業の概要>

領域「人間関係」に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。子どもを取り巻く社会背景(家庭・地域を中心に)を捉え、それらの環境が子どもの資質・能力にどのような影響を及ぼすかについて考える。それらの課程で、保護者として適切ななかかわりを検討する。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

毎日、予習課題を指定するので、授業の前に取り組んでおくこと。復習は、配布資料を中心に復習すること。(各回授業の予習・復習時間は60分)

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|------------------------|----|------|
| 1 | 保育の基本と領域「人間関係」 | 16 | |
| 2 | 子どもを取り巻く社会の状況 | 17 | |
| 3 | 領域「人間関係」の「ねらい及び内容」 | 18 | |
| 4 | 0～2才児の人との関わりの発達と保育の援助 | 19 | |
| 5 | 3～5才児の人との関わりの発達と保育の援助 | 20 | |
| 6 | 愛着形成の理論と実際 | 21 | |
| 7 | 子どもの自立心 | 22 | |
| 8 | 子どもの自己主張と自己発揮 | 23 | |
| 9 | いざこざ・けんかなどのトラブル | 24 | |
| 10 | 共感・思いやり | 25 | |
| 11 | 道徳性・規範意識 | 26 | |
| 12 | コミュニケーション能力 | 27 | |
| 13 | 個と集団の育ち | 28 | |
| 14 | 子どもと人間関係 | 29 | |
| 15 | 環境が子どもの資質・能力に及ぼす影響について | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

レポートと科目終末試験 レポート課題等:50%、科目終末試験:50%

<テキスト>

「対話的・深い学びの保育内容 人間関係」萌文書林

<参考書・参考資料など>

0才～6才子どもの発達と保育の本 2012年5月31日第5刷発行 (株)学研教育出版
 気になる子の保育 2012年7月第1刷発行 (株)チャイルド社

実務経験の有無 有 無

| | | | |
|------|--------|------|---------------|
| 科目名 | 子どもの保健 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| 担当者名 | 照喜名富美子 | 授業形態 | 講義 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

- ・子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について説明できる。
- ・子どもの心身の正常な発育及び、発達段階各期の特徴を述べることができる。
- ・子どもの保健行政について述べるができる。
- ・子どもにおこりやすい疾病や事故について述べ、その予防と対策を説明できる。
- ・保育者としての役割を述べるができる。

<授業の概要>

保育において、保健活動を展開する為に保育者は、子どもの発育発達、子どものかかりやすい病気、その予防、対処法、関連機関との連携、組織的な取り組みの必要性を理解しておくことが、大切である。授業を通して、保健活動の展開に必要な知識を習得し、専門職をめざす者として実践に役立てる

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

①授業内容を深める為、また定期試験に備える為に常に予習・復習をし、要点を書きまとめる努力をすること。②昨今子どもを取り巻く環境は、子どもの健康を考える上で様々な課題がある。現状を把握する一助として、新聞やインターネット上の情報に関心を持つ。③医学用語の意味を理解する。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|--------------------------|----|----------------------|
| 1 | 小児保育の意義・目的、健康の定義 | 16 | 母親のメンタルヘルス |
| 2 | 小児保育水準について | 17 | 子どものトラウマと対応、地域精神保健活動 |
| 3 | 母子保健について | 18 | 子どもの生活と健康 |
| 4 | 身体発達と保険－発育の原則 | 19 | 子どもの疾病と保育①－疾病の特徴・呼吸 |
| 5 | 身体発育の評価、身長、体重のバランス | 20 | 重要な感染症・消火器疾患 |
| 6 | 肥満と痩せ、身体発育に影響する要因 | 21 | 循環器疾患、泌尿・生殖器疾患 |
| 7 | 生理機能の発達－自律神経 | 22 | 中枢神経系疾患、代謝・内分泌疾患 |
| 8 | 体温、水分代謝と発熱、循環 | 23 | 血液・腫瘍性疾患、アレルギー疾患 |
| 9 | 呼吸・心拍・血圧、消化吸収、排泄 | 24 | 整形外科疾患、その他の疾患 |
| 10 | 睡眠、感覚器官、免疫 | 25 | 子どもの疾病と保育②－乳幼児突然死症候群 |
| 11 | 運動機能の発達と保険 | 26 | 予防接種・保育所での感染症の取り扱い |
| 12 | 精神機能の発達と保険 | 27 | 身体障害のある子どもとその対応 |
| 13 | 精神保健とは、子どもの心身の健康 | 28 | 乳幼児健康診査、疾病異常と支援体制 |
| 14 | 心身症、生活習慣や行動上の問題 | 29 | 環境整備、事故防止と安全管理 |
| 15 | 発達障害・その対応、慢性疾患の子どもの抱える問題 | 30 | 保健活動の計画及び評価 |

<評価の基準・単位認定の基準>

①授業への積極的参加 30% ②課題提出 30% ③定期試験 40%

<テキスト>

「よくわかる子どもの保健 第3版」ミネルヴァ書房、2012年

<参考書・参考資料など> 監修：加藤尚志・南沢享「いちばんやさしい生理学」成美堂出版(2015)
 監修：近喰晴子「保育士合格テキスト下」成美堂出版(2019) 独立行政法人環境保全機構「食物アレルギーを正しく知ろう」H26 著者：食信均「乳幼児の便秘」芽生え社(2017年) (公)沖縄県小児保健協会主催の保健セミナーによる資料

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|---|-------------------------|------|-----------------------|
| 科目名 | 子どもの健康と安全 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 照喜名 富美子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |
| <p><到達目標></p> <p>身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。</p> | | | |
| <p><授業内容></p> <p>資料やDVDの活用、演習(ダミー人形使用、身近にある物品を使用して応急処置をする)を通して子どものかかりやすい疾病の症状の症状別対処法を習得し、ケガや事故に対応できるようにすることをねらいとする。</p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス></p> <p>演習に積極的に取り組む。事前にテキストを読み演習(バイタルサイン測定、身体計測)がスムーズに行えるようにする。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
| 1 | 看護の概念、疾病と症状別対処法 | 1 | 子どもの事故防止対策と安全教育 |
| 2 | バイタルサインについて、バイタルサインの測定法 | 2 | 傷と止血、骨折、肘内障について |
| 3 | バイタルサイン測定、演習 | 3 | 子どもの救命処置(AED)DVD鑑賞 |
| 4 | 身体計測(ダミー人形使用)① | 4 | 応急手当(前腕骨骨折)デモンストレーション |
| 5 | 身体計測(ダミー人形使用)② | 5 | 三角巾、包帯の使い方 |
| 6 | 沐浴演習① | 6 | 演習(前腕骨骨折の応急処置)① |
| 7 | 沐浴演習② | 7 | 演習(前腕骨骨折の応急処置)② |
| 8 | 沐浴演習③ | 8 | まとめ |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> <p>授業への積極的参加 60%</p> <p>課題提出 40%</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「よくわかる子どもの保健 第3版」</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> <p>一般財団法人救急振興財団:「応急手当講習テキスト改訂5版」</p> <p>県立柏原病院小児科「病院に行くその前に」「わかる、使える、バイタルサインフィジカルアセスメント」</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/>有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|------|----------|------|---------------|
| 科目名 | 子ども家庭支援論 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 仲嘉恒治 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取り巻く社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考察する。現在の保育所が求められているのは、地域における子育てセンターとしての役割である。子育てを通しおやや地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。保育所の他にも保険福祉センター、児童相談書、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が子育てを支援している。これらが社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。

<授業の概要>

子どもの最善の利益を守ることは、子どもが育つ場を大切に守り育てることを意味するといっても過言ではありません。本講義は、保護者としてそのためにできることを考え、そのための基本的な知識と手立てを身につける足掛かりを形成していきます。保育相談支援の基本的知識や方法を基本的な知識として蓄積し、事例に対してできるだけ適切な計画を立てられるようにしていきましょう。

<事前学習及び事後学習>

【予習】①子どもの育ちと家庭に関する話題はメディアはもちろん、日常の場にもあふれている。常にそれらの話題に敏感であること。②事前に提示するキーワードを頭に入れておくこと。【復習】子どもの育ちに関する事例にたいして、いくつもの理解や手立ての可能性を言語化できるようにして考察を深める。また、支援のための基本的な態度については、日常のコミュニケーションの中で習慣化するように努める。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|--|----|---|
| 1 | 第1講子ども家庭支援の意義と必要性 | 16 | 第11講子ども家庭支援の内容と対象 |
| 2 | 第1講子ども家庭支援の意義と必要性、「要保護児童について」 | 17 | 第11講子ども家庭支援の内容と対象、「要保護児童等およびその家庭に対する支援」 |
| 3 | 第1講子ども家庭支援の意義と必要性、「子育て新制度から考える」 | 18 | 第12講保育所等を利用する子どもの家族への支援 |
| 4 | 第2講子ども家庭支援の目的と機能、「保育所指針から考える」「幼稚園教育要領から考える」 | 19 | 第12講保育所等を利用する子どもの家族への支援、「保育ソーシャルワークの必要性」 |
| 5 | 第2講子ども家庭支援の目的と機能、「幼稚園教育要領から考える」「全国保育士会倫理綱領をもとに考える」 | 20 | 第12講保育所等を利用する子どもの家族への支援、「事例から考える子ども家庭支援の援助」 |
| 6 | 第3講子育て支援施策・次世代育成施策の推進、「少子化の背景から考える」 | 21 | 第13講地域の子育て家庭への支援 |
| 7 | 第4講子育て家庭の福祉を図るための社会資源 | 22 | 第13講地域の子育て家庭への支援、「事例」から |
| 8 | 第5講保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義「保育所・幼稚園・認定こども園から考える」 | 23 | 第14要保護およびその家庭に対する支援「要保護児童の全体像」 |
| 9 | 第5講保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義、第6講子どもの育ちの喜び共有 | 24 | 第14要保護およびその家庭に対する支援「家庭と同様の養育環境」 |
| 10 | 第6講子どもの育ちの喜び共有「保護者共有ツール」 | 25 | 第14要保護およびその家庭に対する支援「施設養護」 |
| 11 | 「保育事例」から子ども子育て支援・援助・アプローチを考える | 26 | 第15講子育て支援に関する課題と展望 |
| 12 | 第7講保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 | 27 | 子育て支援プログラムについて「ソーシャルスキル・トレーニング」 |
| 13 | 第8講保育士に求められる基本的態度「バイステックの7原則」「受容的かかわり」 | 28 | 子育て支援プログラムについて「ペアレント・トレーニング」 |
| 14 | 第9講家庭の状況に応じた支援 | 29 | 総括：子ども家庭支援に関する現状と課題 |
| 15 | 第10講地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 | 30 | 総括：子ども家庭支援に関する現状と課題 |

<評価の基準・単位認定の基準>

授業への積極的参加：40% 提出物：30% 定期試験30%

<テキスト>

「よくわかる家庭支援論 第2版」ミネルヴァ書房、2015年

<参考書・参考資料など>

浜田寿美男『親になるまでの時間・前編』ジャパンマシニスト 2017年

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|---|---------------|------|--------------------|
| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 伊禮 典子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理 ・家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその過程をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。 | | | |
| <p><授業の概要></p> <p>本授業では生涯発達に関する心理学的な基礎知識を学んだああと、乳幼児期における家族・家庭の役割について学ぶ。さらに、子育て家庭をめぐる現代的状況について学び、貧困、児童虐待等の課題に関して理解する。また、子どもの精神保健に家庭が果たす役割に関して理解を深め、保育者として家庭を</p> | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス></p> <p>児童虐待の問題や貧困の問題など、家庭を取り巻く様々な問題に関してニュースや本などを読み「自分が保育者になったら子育て支援に関してどんなことができるか」を考えておくこと。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
| 1 | 乳幼児期の子どもの発達① | 16 | 家族関係・親子関係の理解② |
| 2 | 乳幼児期の子どもの発達② | 17 | 子育ての経験と親としての育ち① |
| 3 | 幼児期の発達① | 18 | 子育ての経験と親としての育ち② |
| 4 | 幼児期の発達② | 19 | 子育てを取りまく社会的状況① |
| 5 | 学童期の発達① | 20 | 子育てを取りまく社会的状況② |
| 6 | 学童期の発達② | 21 | ライフコースと仕事・子育て① |
| 7 | 青年期の発達① | 22 | ライフコースと仕事・子育て② |
| 8 | 青年期の発達② | 23 | 多様な家庭とその理解① |
| 9 | 成人期・中年期の発達① | 24 | 多様な家庭とその理解② |
| 10 | 成人期・中年期の発達② | 25 | 特別な配慮を要する家庭① |
| 11 | 高齢期の発達① | 26 | 特別な配慮を要する家庭② |
| 12 | 高齢期の発達② | 27 | 子どもの生活・生育環境とその影響① |
| 13 | 家族・家庭の意義と機能① | 28 | 子どもの生活・生育環境とその影響② |
| 14 | 家族・家庭の意義と機能② | 29 | 子どものこころの健康にかかわる問題① |
| 15 | 家族関係・親子関係の理解① | 30 | 子どものこころの健康にかかわる問題② |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> <p>授業への積極的参加:40% 提出物:30% 定期試験:30%</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「子ども家庭支援の心理学」中央法規出版、2019年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> <p>橋本真紀・山縣文治(編)『よくわかる家庭支援論』第2版 ミネルヴァ書房2015年</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|------|------|------|--------|
| 科目名 | 保育原理 | 学科名 | こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 知花涼子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本、保育の思想と歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。また、保育の現状と課題について考察する。これらを通して、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識をもつことを目標とする。保育者として絵本の読み聞かせなどを通し、コミュニケーションスキルを身につける。

<授業の概要>

保育の基本原理を学び、人的環境である保育者として育つ

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

・絵本の読み聞かせを行う・子どもが育つ魔法の言葉ドロシーローノルト詩「子どもは親の鏡」を紹介

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|-------------------|----|---------------------|
| 1 | 自己紹介 保育とは何か 1章 | 16 | 保育の計画と実践の原理 6章 |
| 2 | 保育と養護と教育の関係 | 17 | 保育の計画における計画と種類 |
| 3 | 保育の専門性とは何か | 18 | 保育の専門性を高める計画 |
| 4 | 保育の基盤としての子ども観 2章 | 19 | 健康、安全と障害のある子への対応 7章 |
| 5 | 保育者の子ども観を形づくるもの | 20 | 健康な子どもの姿と障害のある子への対応 |
| 6 | 子ども観と保育の内容、方法 | 21 | 保育の歴史に学ぶ 8章 |
| 7 | 子ども理解から出発する保育 3章 | 22 | 保育者に求められるもの 9章 |
| 8 | 子どもの発達をとらえる「まなざし」 | 23 | 保育者という仕事 |
| 9 | 子ども理解を深めるために | 24 | 家庭支援と子育て支援 10章 |
| 10 | 子どもが育つ環境の理解 4章 | 25 | 保育の評価と苦情処理 11章 |
| 11 | 物的環境と人的環境の関連を考える | 26 | 研修と資質の向上 |
| 12 | 子どもが育つ環境を振り返る | 27 | 保育の現状と課題 12章 |
| 13 | 保育内容、方法の原理 5章 | 28 | テスト対策 |
| 14 | 子どものための保育内容とは | 29 | 保育原理の振り返り |
| 15 | 子どものための保育方法とは | 30 | 子育て講和 |

<評価の基準・単位認定の基準>

全授業後、テストを行い点数で評価する

<テキスト>

「保育原理」 ミネルヴァ書房

<参考書・参考資料など>

「子どもが育つ魔法の言葉」
保育専門誌『ポット』

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 科目名 | 保育原理 | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 高江洲 和子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本、保育の思想と歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。また、保育の現状と課題について考察する。これらを通して、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識をもつことを目標とする。

<授業の概要>

保育者に求められる専門職としての役割や責務についてテキストを中心に幼稚園教育要領・保育所保育指針などから理論を理解し、保育現場の環境や子供たちの生活の様子をDVDやパワーポイントの視聴を通して実態を知り保育者としての基本的な知識・技能等の資質について学ぶ。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

- 毎回の授業で使用するテキスト・幼稚園教育要領・保育所保育指針などを忘れずに持参すること。
- テキスト等を通読する際、重要だと思われる箇所にアンダーラインを引きながら理解する。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|---------------------------------|----|----------------------------------|
| 1 | イントロダクション | 16 | 作品紹介発表(個人)① |
| 2 | 保育とは何か・養護と教育・幼稚園・保育所・認定こども園について | 17 | 作品紹介発表(個人)① |
| 3 | 「幼稚園教育の基本」と重視する事項幼稚園教育要領 | 18 | 障がいのある子どもへの対応 |
| 4 | 幼稚園の活動・環境についてパワーポイント視聴 | 19 | 幼児教育・保育の基本ー保育の一場面からー |
| 5 | 5領域について 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 | 20 | 保育内容・幼児期にふさわしい生活・園生活全体を見通す計画の必要性 |
| 6 | 保育の専門性とは | 21 | 保育者のさまざまな役割 |
| 7 | 子どもの発達を捉える | 22 | 保育方法の原則「主体的・自発的」 |
| 8 | 子ども観とは何か、子どもの理解を深めるための保育者の役割 | 23 | 一人ひとりを大事にするとは、遊びを通してとは |
| 9 | カウンセリングマインド、倉橋惣三について | 24 | 保育の計画と実践の原理 |
| 10 | 子どもが育つ環境の理解 | 25 | DVD視聴 子ども理解について |
| 11 | 保育の計画 教育課程・指導計画とその関連 | 26 | DVD視聴後の課題についてグループ協議 |
| 12 | 長期の指導計画・短期の指導計画 | 27 | DVD視聴後の課題につてレポートを書く |
| 13 | 教材制作生活素材の活用 新聞紙① | 28 | 保育の現状と課題 |
| 14 | 教材制作6角変わり絵② | 29 | 保育者の研修と資質の向上について |
| 15 | 6角変わり絵の 絵とお話づくり | 30 | 授業内容の振り返り |

<評価の基準・単位認定の基準>

- ①主体的学ぶ姿勢15% ②レポート提出物20% ③発表15% ④テスト50%

<テキスト>

「保育原理」 ミネルヴァ書房

<参考書・参考資料など>

「専門職としての保育者」光生館 「子どもの理解と保育・教育相談」みらい「子どもの発達相談」フレーベル館
「保育者になりたいあなたへ」小学館

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 音楽表現(指導法) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 大崎 正和 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

子どもの感性、意欲、創造性を育むため有効であるリズム運動(特に付点や連符)、リトミック、手遊び、声遊び、模倣運動、即興演技の各種バリエーションを行うことで、将来保育士及び幼稚園教諭となる学生が、子どもの豊かな感性を引き出す援助や指導が出来るよう自己表現力をつけさせる。社会生活に於いて最も重要な「演じる」ということを基盤に、チームでのワーク(ボディーパーカッション、ヴォイスパーカッションやインプロ)を行うことで即時反応力をつけ、現場での円滑な指導に役立てるようにする。

<授業内容>

身体と心をほぐすアイスブレイクワークからスタートし、さかさことばうた、リズム伝達、ボディーパーカッション、ヴォイスパーカッションなどワークを行う。また、近年多くの園が取り入れているリトミックの簡単な概念と実践を行い、即興演技(インプロ)ワークの実践を組み合わせ、二日目の最後にはそれらを総合したミニ発表会を行い、最後に指定書式によるレポートを提出する。

<学生へのアドバイス・事前準備など>

動きやすい服装(トレーナーなど)、上履き(バレエシューズ)など踵がない動きやすい履物、汗ふき用タオルなどを必ず準備してきて下さい。忘れ物も評価加味します。病気等で身体ワークに支障をきたす学生は、事前に申し出る事。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|--------------------|----|--------------------|
| 1 | アイスブレイクワーク、チーム分け | 1 | アイスブレイクワーク、アテ振り歌実践 |
| 2 | まねっこリズムワーク | 2 | インプロ基礎、モノボケ実践など |
| 3 | リズムリレー・プラス、みなさんワーク | 3 | ボディーパーカッション実践(2) |
| 4 | ボディーパーカッション実践(1) | 4 | ヴォイスパーカッション実践(2) |
| 5 | ヴォイスパーカッション実践(1) | 5 | インプロワーク発展実践 |
| 6 | リトミックの概念解説及び実践 | 6 | ミニ発表会に向けた総合練習 |
| 7 | 新聞紙等を使ったリズム遊びワーク | 7 | ミニ発表会 |
| | | 8 | レポート書き及び提出 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<成績評価・単位認定基準>

出席(準備物を含む:30%)、授業態度(20%)、実技評価(35%)、レポート(15%)

<テキスト>

適宜プリント、小冊子などを配布

<参考書・参考資料など>

他授業の、幼児の発達に関する項目や体育実技等のリズムに関する項目を読んで、ワーク実践と理論を自分の中で繋げられるようにして下さい。

実務経験の有無 有

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 英会話 I | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 南風原ダニエル圭斗 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身のことを表現することができようになることが目的です。この授業では保育園や幼稚園で必要となる英語を学んでいきますが、園での先生と園児または保護者とのやりとりは、日常に関するものがほとんどです。4技能をバランスよく学習し、身近な英語表現を知ることによって自分自身の英語力を高めていきましょう。

<授業の概要>

保育英語対応でのコミュニケーションを円滑に進めるためには、相手との人間関係を良好に保つための言語表現や敬語表現を身につける必要があります。また、苦手意識の多い英語を楽しい授業に工夫(イミテーションの果物を使用)し、学習することで徐々に英語力を高めていく。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|---------------------------------|----|------|
| 1 | あいさつ、自己紹介 | 16 | |
| 2 | 登園時の会話など | 17 | |
| 3 | 集団活動の会話など | 18 | |
| 4 | 園庭や遊具の名前、命令文など | 19 | |
| 5 | お昼寝時間の会話など | 20 | |
| 6 | mustとhave toとshould・英語のジェスチャーなど | 21 | |
| 7 | 1日の活動と様子の伝える表現など | 22 | |
| 8 | 中間テスト | 23 | |
| 9 | ifを使った表現など | 24 | |
| 10 | 時刻、動物と鳴き声など | 25 | |
| 11 | 体調不良の園児との会話など | 26 | |
| 12 | 体の部位名・親族など | 27 | |
| 13 | 保護者との電話・伝言など | 28 | |
| 14 | 最後の日の会話など | 29 | |
| 15 | 誕生日会、歌に合わせる動きなど | 30 | |

<成績評価・単位認定基準>

授業への積極的態50%、試験50%

<テキスト>

「Happy English for Childcare」(土屋麻衣子著、金星堂)

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 英会話 I | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 南風原ダニエル圭斗 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

簡単な自己紹介を自分で書く・話すことができる。日常生活において使用される単語や表現を理解する。基本的な英文法を理解し問題を解くことができる。

<授業内容>

クラス全体の和及びコミュニケーションの第一歩として「フルーツバスケット」をする。身の回りの保育英語表現を学び、個人発表やグループ発表をする。

<学生へのアドバイス>

保育英語を覚え、外国人と話す勇気を持ちましょう。講義内での英語による対話では保育士になりきったり、時には園児になりきって英会話によるコミュニケーションを楽しもう。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|---------------------|----|---------------|
| 1 | あいさつ、自己紹介 | 1 | 中間テスト |
| 2 | コミュニケーションとしてのレクⅠ | 2 | グループ発表① |
| 3 | コミュニケーションとしてのレクⅡ | 3 | グループ発表② |
| 4 | グループワーク「保育英語」の会話 | 4 | 発表を通して振り返り |
| 5 | グループワーク「英語表現」の会話 | 5 | 個人発表に向けての内容作成 |
| 6 | グループワーク「園内のあいさつ」の会話 | 6 | 個人発表① |
| 7 | グループワーク「家族」同士の会話 | 7 | 個人発表② |
| 8 | グループワーク「園行事」についての会話 | 8 | 最終試験 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<成績評価・単位認定基準>

個人発表、グループ発表50%、最終試験50%

<テキスト>

講師作成の資料を配布

<参考書・参考資料など>

インターネット、保育英語資料

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|--|-----------------------------|------|-----------------------|
| 科目名 | 教育相談 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 岸本 悦子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の意義・方法について理解し、幼児理解と発達・学びと関連性を理解する。 ・幼児理解を個と集団の視点から理解する。 ・幼児教育における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解 ・カウンセリングマインドの必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な態度・技法を理解する。 ・幼児の不応答や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。 ・保護者へのカウンセリングマインドを生かした子育て支援に関して理解する。 ・教育相談を勧めるための組織整備や多職種との連携に関して理解する。 | | | |
| <p><授業の概要></p> <p>幼児理解の視点を生かした教育相談の意義、方法、技術について学ぶ。 教育相談に関わる心理学の理論、概念を学ぶとともに、組織整備の必要性や、園内及び他機関と連携しながら、カウンセリングマインドを生かした幼児、保護者支援の在り方について理解し、基礎的な技術</p> | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス></p> <p>①レポート作成の基本的なスキルを習得する。②テキストを熟読する。③テキストのみならず各自で日常的に新聞等に目を通し、参考文献その他の資料を収集し整理しておく。④レポートを作成するときはテキストを基本とし、文献引用のルールを守りながら、自分の考えをしっかりと書くこと。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
| 1 | レポート作成のためのスキル①(基礎) | 16 | 保護者との関係構築①(グループワーク) |
| 2 | レポート作成のためのスキル②(演習) | 17 | 保護者との関係構築②(グループ発表) |
| 3 | 子育て支援(教育相談)の必要性 | 18 | 幼児期における諸問題の理解 |
| 4 | 幼児理解①(幼児教育の意義) | 19 | 養育困難を抱える保護者の支援 |
| 5 | 幼児理解②(個と集団の視点) | 20 | 虐待の疑いがある家庭への支援 |
| 6 | 幼児理解③(観察法) | 21 | 障害のある子への理解と支援 |
| 7 | カウンセリングの基本原則(カウンセリングマインド) | 22 | 障害のある子を持つ保護者への支援 |
| 8 | カウンセリングの理論①(来談者中心療法、精神分析) | 23 | 精神疾患の理解 |
| 9 | カウンセリングの理論②(アドラー心理学、ユング心理学) | 24 | 精神疾患のある保護者への支援 |
| 10 | カウンセリングの理論③(交流分析、行動療法他) | 25 | ネットワークづくり①(親の会) |
| 11 | カウンセリングの技法① | 26 | ネットワークづくり②(外部機関等との連携) |
| 12 | カウンセリングの技法② | 27 | 仲間づくり①(SGE理解) |
| 13 | カウンセリングの技法③(傾聴と応答訓練) | 28 | 仲間づくり②(SGEミニエクササイズ) |
| 14 | 教育相談の実際(事例研究①) | 29 | 教育相談の体制づくり(園内連携) |
| 15 | 教育相談の実際(事例研究②) | 30 | 教育相談と私(自己と向き合う) |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> <p>レポート(2冊)、科目終末試験(60%)・課題(発表、授業前中後の小レポート等の提出物40%)</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「子育て支援カウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～」図書文化、2008年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省他)</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 日本国憲法 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 大城 尚志 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

日本国憲法は、国の基本法として日本の政治と国民生活の基本的なあり方を指し示したものですから、憲法がもっとも大切にしている原理・原則は何か、おして、その原理・原則を実現するための政治のしくみはどうなっているかを体系的に学習していかなければなりません。その学習において、憲法が求めている”日本の姿”と現実社会との間にいくつかの矛盾や問題があることにきつと気づかれるでしょう。それらの矛盾や問題をひとりの国民としていかに考えるか、そのリーガルマインドを養っていくのが、憲法学習の到達目標です。

<授業の概要>

日常生活と憲法がどのように関わっているのかを意識しながら、憲法と政治のシステムを具体的に解りやすい内容になるよう工夫します。またグループワークで討論を行ったり、感想や質疑応答形式での授業展開を取り入れ、学生の皆さんの積極的な参加で一緒につくる授業を目指します。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

世の中で起こっている社会問題を新聞等のニュースでチェックしたり、自分自身の生活上の困りごとや地域の課題について考え・意見をつくり、授業での討論に積極的に参加し、発表できるよう心がけてください。その中で憲法の本質を発見していきましょう。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|----------------|----|-----------|
| 1 | 憲法とは何か・立憲主義の意味 | 16 | 表現の自由 |
| 2 | 社会生活と憲法 | 17 | 職業選択の自由 |
| 3 | 近代憲法と明治憲法 | 18 | 生存権 |
| 4 | 日本国憲法の制定 | 19 | 教育を受ける権利 |
| 5 | 日本国憲法の基本原理 | 20 | 労働基本権 |
| 6 | 国民主権 | 21 | 身体の自由 |
| 7 | 平和主義 憲法9条の解釈 | 22 | 請求権・請願権 |
| 8 | 平和主義と国際貢献 | 23 | 参政権・国民の義務 |
| 9 | 日米安保の現状 | 24 | 議会制度・権力分立 |
| 10 | 人権思想の確立 | 25 | 国会 |
| 11 | 幸福追求権と新しい人権 | 26 | 内閣 |
| 12 | 法の下での平等 | 27 | 裁判所 |
| 13 | 思想・良心の自由 | 28 | 地方自治 |
| 14 | 信教の自由・学問の自由 | 29 | 憲法の最高法規制 |
| 15 | 学問の自由 | 30 | 憲法改正の手続き |

<評価の基準・単位認定の基準>

授業への積極的参加 30%
レポート等提出物 30%
定期試験結果 40%

<テキスト>

「日本国憲法」

<参考書・参考資料など>

授業で紹介、もしくは配布

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|---|---------------------------------|------|---------------|
| 科目名 | 情報処理入門Ⅰ | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義・演習 |
| 担当者名 | 新垣 安仁 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |
| <p><授業の到達目標> テキストを学習範囲とし、情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア/ソフトウェアについて概観します。演習では、オフィススイート(Word・Excel・PowerPoint)の基本操作を習得することを目標とします。</p> | | | |
| <p><授業の概要> 科目終末試験に向けて教科書を使用しながら知識を学び、演習でもって理解を深める。</p> | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス> 可能な限り、予習・復習を行ってください。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
| 1 | 授業概要について | 16 | |
| 2 | 第1章 情報処理の基礎 1.1情報とは | 17 | |
| 3 | 1.2 データの表現方法 | 18 | |
| 4 | 第2章 コンピュータシステム 2.1コンピュータの歴史 | 19 | |
| 5 | 2.2 コンピュータの5大装置 2.3入力装置 2.4出力装置 | 20 | |
| 6 | 2.5記憶装置 2.6中央処理装置 | 21 | |
| 7 | 第3章 ソフトウェア 3.1基本ソフトウェア | 22 | |
| 8 | 3.2代表的な基本ソフトウェア 3.3応用ソフトウェア | 23 | |
| 9 | 3.4市販ソフトウェアとフリーウェア・シェアウェア | 24 | |
| 10 | 第4章 ネットワーク | 25 | |
| 11 | 第5章コンピュータとネットワークの脅威 | 26 | |
| 12 | 第6章 オフィススイートの導入と利用 | 27 | |
| 13 | 課題レポートについて | 28 | |
| 14 | 試験対策 | 29 | |
| 15 | 試験対策 まとめ | 30 | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準> レポート・科目終末試験を総合評価します。</p> | | | |
| <p><テキスト> 「情報処理入門」</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など> 適宜テキスト、サイトを紹介します。</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> | | | |
| <p>実務経験の内容</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------|------|-------------------|
| 科目名 | 教職概論 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 大宮 廣子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |
| <p><授業の到達目標> 教職概論は教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標としています。</p> | | | |
| <p><授業の概要> 教師の役割、求められている姿などの基本的事項の理解のうえに、教師にとって必要不可欠な資質、職務内容の在り方への考察を深めていきます。</p> | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス> 教科書をよく読んでください。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
| 1 | 第1章 教育とは何か | 16 | 第7章 学校にかかわりを持つ人々 |
| 2 | 第1章 教育とは何か | 17 | 第7章 学校にかかわりを持つ人々 |
| 3 | 第2章 子どもとともに生きる教師の生活 | 18 | 第8章 カウンセリングマインド |
| 4 | 第2章 子どもとともに生きる教師の生活 | 19 | 第8章 カウンセリングマインド |
| 5 | 第3章 日本における教師の歴史 | 20 | 第8章 カウンセリングマインド |
| 6 | 第3章 日本における教師の歴史 | 21 | 第9章 教師をめぐる新しい動き |
| 7 | 第3章 日本における教師の歴史 | 22 | 第9章 教師をめぐる新しい動き |
| 8 | 第4章 現代社会の子ども | 23 | 第9章 教師をめぐる新しい動き |
| 9 | 第4章 現代社会の子ども | 24 | 第10章 教師をめぐる法律 |
| 10 | 第5章 幼稚園・保育所の生活と遊び | 25 | 第10章 教師をめぐる法律 |
| 11 | 第5章 幼稚園・保育所の生活と遊び | 26 | 第11章 教育改革とこれからの教師 |
| 12 | 第5章 幼稚園・保育所の生活と遊び | 27 | 第11章 教育改革とこれからの教師 |
| 13 | 第5章 幼稚園・保育所の生活と遊び | 28 | 第12章 教職の専門性と研修 |
| 14 | 第6章 小学校での学習と専科教員 | 29 | 第12章 教職の専門性と研修 |
| 15 | 第6章 小学校での学習と専科教員 | 30 | まとめ |
| <p><評価の基準・単位認定の基準> 出欠・授業態度 40% 提出物40% 試験30%</p> | | | |
| <p><テキスト> 「未来の教師に向けて<改定>教職入門 改訂版」萌文書林、2018年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など> 適宜紹介します</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> <p>実務経験の内容</p> | | | |

| | | | |
|------|----------|------|---------------|
| 科目名 | 教育実習事前指導 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| 担当者名 | 今 秀子 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ・教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。
- ・観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。
- ・「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。

<授業内容>

・教育実習は学力・人間性・感性など全体的な「人間力」が問われる。そのためにも、座学で学んだ知識を結集して、円滑かつ有意義に行われるよう基礎的な知識を、理解を深めていく。

<学生へのアドバイス>

- ・保育所、認定こども園、幼稚園における役割と特色について把握しておく。
- ・自分の得意とする分野、ピアノ、読み聞かせ、手遊び、わらべ唄、ゲームなどを十分にしておく。
- ・子ども理解、地域とのかかわり、ボランティア活動に参加する。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|-------------------------|----|------------------------|
| 1 | 本学の教員養成の目標と教育実習の意義について | 1 | 指導計画の作成と立案(幼児の姿から) |
| 2 | 幼稚園の役割と機能 幼稚園教育の特色 | 2 | 環境構成とねらいと、かかわり |
| 3 | 幼稚園教諭の責任と倫理義務について | 3 | 課題レポート(絵本の読み取り = 感性) |
| 4 | 実習時の参加方法と記録作成(実習園の特徴・教育 | 4 | 実習園での課題と自己の関わり |
| 5 | 方法の把握と関わりかた) | 5 | ①気になる子への視点、環境(家庭・地域) |
| 6 | 幼児期の発達課題と生活、地域とのかかわり | 6 | ②担当教諭への視点と園全体の関わり方 |
| 7 | 実習日誌の記録と自己の振り返りの意義 | 7 | 演習:グループ討議と発表(子どもとの関わり) |
| 8 | (前年度実習園の反省と要望より) | 8 | ※子どもの行動、言葉、教諭の言動から |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

- ・事前提示の課題レポート(50%) 授業中における課題レポート(50%)

<テキスト>

<参考書・参考資料など>

- ・幼保連携型認定こども園教育 ・保育要領解説 ・幼稚園教育要領 ・モンテッソーリ教育(学苑社)

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|---------|------|--------|
| 科目名 | 環境(指導法) | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| 担当者名 | 今 秀子 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。子どもを取り巻く様々な環境にかかわる保育の内容及び指導に関する知識・技術を取得する。子どもの発達における環境の重要性と幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。

<授業内容>

子どもの発達に欠かせない領域「環境」を踏まえ、様々な環境に関わる活動と地域探索や動物園実習のフィールドワークを通して、気付く・考える・工夫するや命の尊さ、思いやりなど非認知的能力が育まれる環境教育を深めていく。

<学生へのアドバイス>

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」における領域「環境」を読み込んでおく。自身の周りにおける自然環境を意識し観察する習慣付けや、関連文献・情報のキャッチをする中で知識や感性を高めていく。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|-------------------------|----|---------------------|
| 1 | 幼児教育の基本と領域「環境」のねらいと内容 | 1 | 動物園実習事前指導 グループワーク |
| 2 | 自信(幼児期)の自然や社会環境を刷り合わせ | 2 | 子どもの国・動物園実習(飼育員の講話) |
| 3 | 地域探索の事前指導 グループワーク | 3 | グループワーク 動物・園内観察 |
| 4 | 6自治会(行事と子ども)・公園・街中・住宅地・ | 4 | 動物園観察と飼育環境構想図・まとめ |
| 5 | 公的施設・子どもの居場所・子ども同士の関わり | 5 | 子供と行事・チラシ・新聞紙で遊ぶ |
| 6 | 地域環境と幼児、課題とまとめ | 6 | 幼少連携と活動指導案作成 |
| 7 | 課題討議とまとめ・発表 | 7 | 実践と発表 グループワーク |
| 8 | 伝統遊びと童唄・児童文化財と子どもの発達 | 8 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

- ・事前課題レポート提出(20%)
- ・グループ活動の内容と発表(80%)

<テキスト>

<参考書・参考資料など>

- ・本学園を軸とした地域周辺の環境図(自治会・公園・施設など)
- ・こどもの国動物園案内図

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|---------|------|--------|
| 科目名 | 環境(指導法) | 学科名 | こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 喜舎場勤子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>
 幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。、子どもを取り巻く様々な環境にかかわる保育の内容及び指導に関する知識・技術を取得する。子どもの発達における環境の重要性と幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。

<授業内容>
 子どもの発達に欠かせない領域「環境」を踏まえ、様々な環境に関わる活動と地域探索や動物園実習のフィールドワークを通して、気付く・考える・工夫するや命の尊さ、思いやりなど非認知的能力が育まれる環境教育を深めていく。

<学生へのアドバイス>
 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」における領域「環境」を読み込んでおく。自身の周りにある自然環境を意識し観察する習慣付けや、関連文献・情報のキャッチをする中で知識や感性を高めていく。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|-------------------------|----|---------------------|
| 1 | 幼児教育の基本と領域「環境」のねらいと内容 | 1 | 動物園実習事前指導 グループワーク |
| 2 | 自信(幼児期)の自然や社会環境を刷り合わせる | 2 | 子どもの国・動物園実習(飼育員の講話) |
| 3 | 地域探索の事前指導 グループワーク | 3 | グループワーク 動物・園内観察 |
| 4 | 6自治会(行事と子ども)・公園・街中・住宅地・ | 4 | 動物園観察と飼育環境構想図・まとめ |
| 5 | 公的施設・子どもの居場所・子ども同士の関わり | 5 | 子供と行事・チラシ・新聞紙で遊ぶ |
| 6 | 地域環境と幼児、課題とまとめ | 6 | 幼少連携と活動指導案作成 |
| 7 | 課題討議とまとめ・発表 | 7 | 実践と発表 グループワーク |
| 8 | 伝統遊びと童唄・児童文化財と子どもの発達 | 8 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>
 ・事前課題レポート提出(20%) ・グループ活動の内容と発表(80%)

<テキスト>

<参考書・参考資料など>
 ・本学園を軸とした地域周辺の環境図(自治会・公園・施設など) ・こどもの国動物園案内図

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|--------|
| 科目名 | 幼児と環境 | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| 担当者名 | 今 秀子 | 授業形態 | 講義 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、子どもの発達における環境の重要性と幼児理解を深める。領域「環境」の変遷と、子どもの育ちに欠かせない環境の役割と幼児教育における評価や学びの連続について、具体的な遊び環境や保育を自ら設定して実践的に指導できる。

<授業の概要>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育/保育要領における領域「環境」のねらいと内容・指導について子どもの身近にある環境の具体的な実践事例をとして学ぶ。子どもの発達と環境の重要性や幼児教育における評価と小学校の教科との繋がりを理解し、子どもの多様な経験の構想と配慮した保育の立案ができる。

<事前学習>

・領域「環境」と配布された資料に目を通し、子どもの発達と環境の関わりについて認識しておく
 ・授業や実践事例のメモから要点をまとめ、整理する習慣を身に付ける。(保育者として整理・整頓は必要不可欠) ・指定された教材教具を忘れずに持参し授業に臨む

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|------------------------------|----|------|
| 1 | 幼児を取り巻く環境・幼児教育の目的 | 16 | |
| 2 | 環境の視点(ヒト・モノ・コト)、非認知的能力 | 17 | |
| 3 | 領域「環境」のねらいと内容について | 18 | |
| 4 | 領域「環境」の内容(1～5)と指導上の留意点 | 19 | |
| 5 | 身近な環境の関わりと子どもの感性・発達 | 20 | |
| 6 | 領域「環境」の内容(7～10)と指導上の留意点 | 21 | |
| 7 | 文字・数量・標識・図形と 幼児の生活・遊び | 22 | |
| 8 | 領域「環境」の内容(6, 11, 12)と指導上の留意点 | 23 | |
| 9 | 地域に親しみ、異文化、社会・情報との関わり | 24 | |
| 10 | 児童文化財・伝統文化・童唄と遊びの実践 | 25 | |
| 11 | 幼児教育における評価と振り返りの必要性 | 26 | |
| 12 | 発達的な「学びの連携」小学校教科との繋がり | 27 | |
| 13 | 環境における現代的課題と保育 | 28 | |
| 14 | 環境・出会い・遊びの発展と指導の立案 | 29 | |
| 15 | 模擬保育実践・まとめと発表 | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

・試験(40%) ・課題図書/読解力・感性(30%) ・課題活動とまとめ・発表(30%)
 グループトーク、課題図書の読み取り(感性)・レポート提出

<テキスト>

保育内容「環境」・幼稚園教育要領解説/文部科学省
 絵本課題図書(1)・絵本数冊 ・童唄 ・CD(手遊び、劇遊び)

<参考書・参考資料など>

新しい幼児教育課程総論/同文書院:岸井勇雄:横山文樹 著 ・環境/ひかりのくに:大場幸夫著
 保育の基本1 環境を通しての保育とは/フレーベル館:森上史郎:他4名
 保育の環境構成/小学館:柴崎正行 編著 ・遊び心こそ保育 遊びの指導計画を構想する/乳幼児研究所 玉

実務経験の有無 有 ・ 無

実務経験の内容

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 科目名 | 幼児と環境 | 学科名 | こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 喜舎場 勤子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、子どもの発達における環境の重要性と幼児理解を深める。領域「環境」の変遷と、子どもの育ちに欠かせない環境の役割と幼児教育における評価や学びの連続について、具体的な遊び環境や保育を自ら設定して実践的に指導できる。

<授業の概要>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育/保育要領における領域「環境」のねらいと内容・指導について子どもの身近にある環境の具体的な実践事例をとして学ぶ。子どもの発達と環境の重要性や幼児教育における評価と小学校の教科との繋がりを理解し、子どもの多様な経験の構想と配慮した保育の立案ができる。。

<事前学習>

・領域「環境」と配布された資料に目を通し、子どもの発達と環境の関わりについて認識しておく
 ・授業や実践事例のメモから要点をまとめ、整理する習慣を身に付ける。(保育者として整理・整頓は必要不可欠) ・指定された教材教具を忘れずに持参し授業に臨む

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|------------------------------|----|------|
| 1 | 幼児を取り巻く環境・幼児教育の目的 | 16 | |
| 2 | 環境の視点(ヒト・モノ・コト)、非認知的能力 | 17 | |
| 3 | 領域「環境」のねらいと内容について | 18 | |
| 4 | 領域「環境」の内容(1～5)と指導上の留意点 | 19 | |
| 5 | 身近な環境の関わりと子どもの感性・発達 | 20 | |
| 6 | 領域「環境」の内容(7～10)と指導上の留意点 | 21 | |
| 7 | 文字・数量・標識・図形と 幼児の生活・遊び | 22 | |
| 8 | 領域「環境」の内容(6, 11, 12)と指導上の留意点 | 23 | |
| 9 | 地域に親しみ、異文化、社会・情報との関わり | 24 | |
| 10 | 児童文化財・伝統文化・童唄と遊びの実践 | 25 | |
| 11 | 幼児教育における評価と振り返りの必要性 | 26 | |
| 12 | 発達的な「学びの連続」小学校教科との繋がり | 27 | |
| 13 | 環境における現代的課題と保育 | 28 | |
| 14 | 環境・出会い・遊びの発展と指導の立案 | 29 | |
| 15 | 模擬保育実践・まとめと発表 | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

・試験(40%) ・課題図書/読解力・感性(30%) ・課題活動とまとめ・発表(30%)
 グループトーク、課題図書の読み取り(感性)・レポート提出

<テキスト>

保育内容「環境」・幼稚園教育要領解説/文部科学省
 絵本課題図書(1)・絵本数冊 ・童唄 ・CD(手遊び、劇遊び)

<参考書・参考資料など>

新しい幼児教育課程総論/同文書院:岸井勇雄:横山文樹 著 ・環境/ひかりのくに:大場幸夫著
 保育の基本1 環境を通しての保育とは/フレーベル館:森上史郎:他4名
 保育の環境構成/小学館:柴崎正行 編著 ・遊び心こそ保育 遊びの指導計画を構想する/乳幼児研究所 玉
 聖祐 著

実務経験の有無 有 ・ 無

実務経験の内容

| | | | |
|------|---------|------|---------------|
| 科目名 | 幼児と造形表現 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年後期 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 新屋 和美 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

誕生から6歳までの幼児表象画横断的記録作品の考察から子どもの描画発達をと表現の特徴について学び、保育援助の本質となるそれぞれの子どもの発達段階に適した援助について理解を深める。作品制作では創作の楽しさを体験し、主体的な創造活動を通して自己表現を育み幼児の造形表現に寄り添い、成長を見守る保育者として必要な造形表現援助方法の習得を目指す。

<授業内容>

幼児がの発達講義において幼児画の発達過程と特徴の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について考察する。子ども表現の特徴を学び、子どもとの創作活動への展開と適切な遊びへの援助に役立つ表現方法の演習体験により習得する。作品制作体験後、演習後記の記述から課題に対する自分の意見発表、課題の活用方法の検討を行い、作品鑑賞と子どもの表現活動への展開を図る。

<学生へのアドバイス>

作品制作では楽しみながら取り組んでください。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|----------------------------|----|--------------------------|
| 1 | 美術表現技法体験「デカルコマニー」 | 1 | 作品制作1 幼児表象画に学ぶ |
| 2 | 幼児表象画の発達「子供の絵と造形、表現発達において」 | 2 | 作品制作1 幼児表象画に学ぶ |
| 3 | 幼児表象画の発達「横断的子どもの描画記録か | 3 | 作品制作1 幼児表象画に学ぶ 振り返り |
| 4 | 幼児の造形活動と発達「子どもの作品は生活の鏡」 | 4 | 作品制作2 美術表現技法の活用「デカルコマニー」 |
| 5 | 幼児表象画の特徴/振り返り | 5 | 作品制作2 デカルコマニー作品仕上げ/振り返り |
| 6 | | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<成績評価・単位認定基準>

課題制作、振り返りレポート70%、試験30%

<参考資料等>

「図画工作」「造形表現(指導法)」

<その他>

実務経験の有無

(有)・無

実務経験の内容

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 図画工作Ⅱ | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| 担当者名 | 新屋和美 | 授業形態 | 授業 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

「図画工作Ⅱ」では、4原色による絵画や立体構成作品の制作工程、感想文の記述を通して、創造性や表現力、作品鑑賞を楽しく完成豊かに学び、保育者自身が製作を楽しむ姿勢と、造形あそびの表現技術の習得を目指します。

また、造形活動における安全な道具の扱い方、材料選び、素材の活用といった造形教育指導法を習得し、保育者として子どもを援助し、より豊かな表現へと展開できる実践能力の向上を目指します。

<授業の概要>

保育者を目指す学生が造形において基礎能力の養成を目的とする。実技を中心に造形活動に向かう気持ちを高め、描いたり、作ったりしていく中で感性・創造力を養いながら自分自身の実力を身に付けていく。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

現場にいる子ども達を思い浮かべ、思考しながら「紙芝居」の内容を考える。

5領域における「表現」の【ねらいと内容】に目を通す。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|--------------|----|------|
| 1 | 図画工作とは | 16 | |
| 2 | 作品の製作過程① | 17 | |
| 3 | 作品の製作過程② | 18 | |
| 4 | 表現と材質感 | 19 | |
| 5 | 模写(もやし) | 20 | |
| 6 | 模写(もやし) | 21 | |
| 7 | 材料と用具について | 22 | |
| 8 | 製作(紙コップロケット) | 23 | |
| 9 | 製作(紙コップロケット) | 24 | |
| 10 | 製作(オリジナル紙芝居) | 25 | |
| 11 | 製作(オリジナル紙芝居) | 26 | |
| 12 | 製作(オリジナル紙芝居) | 27 | |
| 13 | 製作(オリジナル紙芝居) | 28 | |
| 14 | 製作(馬ぐわ) | 29 | |
| 15 | 紙芝居発表とまとめ | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

作品評価

<テキスト>

「図画工作」教科書・通信教育補助教材「レポート設題」

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 社会福祉 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 末吉 重人 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

21世紀における本格的な人口の少子化・高齢化によって、わが国の経済社会状況は大きく変化し、社会福祉制度も時代に応じた変化が求められるようになりました。従前ではややもすると「保護」という視点から社会福祉政策は展開されてきましたが、今日では「自立支援」に焦点を置いた社会福祉の取り組みが求められるようになっていきます。つまり、当事者の自立を実現するための社会福祉施策の展開(制度からのアプローチ)と具体的・個別的な実践(当事者に焦点を置いた個別的なアプローチ)の総合化が求められるようになっていきます。このことは、児童福祉(子ども・家庭福祉)の分野でも同様です。

保育・子育て支援に従事する保育士は保育所を含む児童福祉の現場で、保護者に対して相談・助言・情報提供等の役割を担うこととなります。

そこで、本科目では現代社会における社会福祉の全体像を理解するとともに、保護者の子育て支援の方法等を考えていきます。

<授業の概要>

保育士と言えども現代社会において質のいい保育を行うために福祉知識や技術は不可欠のものとなって久しい。少子化、虐待、逸脱、障害など児童を取り巻く状況は複雑化し、それぞれに福祉も含めた総合的なアプローチが必要である。福祉の理念、歴史、制度、法律など学び、保育現場で発生するであろう事態に、福祉的に対応できることを目指す。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

保育日誌の作成等、保育現場で文章力の有無は良質な保育の提供に不可欠である。授業を通じて効果的な文章の書き方を学んでほしい。また、授業中の質問を大いに歓迎する。可能ならディスカッションによる授業展開をおこない、自ら考える力を養ってもらいたい。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|-----------------------|----|-------------------|
| 1 | なぜ保育士が福祉を学ぶのか①②③ | 16 | 知的障がい者とは |
| 2 | 驚くべき虐待の現場 | 17 | 知的障がい福祉法 |
| 3 | 西洋社会事業史概観① | 18 | 精神障がい者とは① |
| 4 | 西洋社会事業史概観② | 19 | 精神障がい者とは② |
| 5 | ノーマライゼーションとは | 20 | 身近にいたはず発達障害① |
| 6 | ソーシャルインクルージョンとは | 21 | 身近にいたはず発達障害② |
| 7 | DVD視聴「盲導犬とノーマライゼーション」 | 22 | 身近にいたはず発達障害③ |
| 8 | 日本社会事業史概観① | 23 | DVD視聴「障害児にピアレッスン」 |
| 9 | 日本社会事業史概観② | 24 | 祖父母支援と老人福祉法 |
| 10 | 貧困問題と生活保護 | 25 | 介護保険法① |
| 11 | 生活保護法②(生活に行き詰まったら) | 26 | 介護保険法② |
| 12 | 身体障がい児と身体障がい者福祉法 | 27 | 母子父子寡婦福祉法と子どもの貧困 |
| 13 | 身体障がい者福祉法② | 28 | DVとシェルターの役割 |
| 14 | DVD視聴「福祉三法成立」 | 29 | 沖縄の子どもの貧困問題① |
| 15 | 障がいの種類について | 30 | 沖縄の子どもの貧困問題② まとめ |

<評価の基準・単位認定の基準>

①試験結果60点 ②小レポート20点 ③授業への参加状況20点

<テキスト>

「コメディカルのための社会福祉(第4版)」講談社2018年

<参考書・参考資料など>

「八訂保育士を目指す人の社会福祉」相澤譲治、杉山博昭、みらい2018年

「現代社会と福祉 第4版」社会福祉養成講座委員会、中央法規出版2014年

「機能不全家族」星野仁彦、アートヴィレッジ2007年

実務経験の有無 有・無

| | | | |
|---|-------------------|------|---------------------|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| 担当者名 | 末吉 重人 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |
| <p><到達目標> 社会的養護の原理と原則を踏まえて、以下の4点に重点を置く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.社会的養護施設の機能と役割を説明できる。 2.自立支援計画や養護の理解と簡単な作成を行える。 3.事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自らの意見を述べるができる。 4.子ども虐待の防止と家庭支援について説明できる。 | | | |
| <p><授業内容></p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス> 論文等の情報でしかないが、現行の社会的養護制度には幾つかの困難がある。そうした現場への就職を行う際、最低限、必要と思われる知識をもとに学びたい。授業中の質問を大いに歓迎する。可能ならディスカッションによる授業展開を行いたい。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
| 1 | 社会的養護の体系と現状 | 1 | 虐待の児童へ与える影響 |
| 2 | 里親制度の利点と親権(DVD視聴) | 2 | 施設での虐待をどう防ぐか(DVD視聴) |
| 3 | 施設養護の現状 | 3 | 日常が持つ治療効果 |
| 4 | 社会的養護における愛着の問題 | 4 | 自立支援計画を書いてみる |
| 5 | 発達障害への支援 | 5 | 幾つかのケースとまとめ |
| 6 | | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準> 試験結果60% 小レポート20% 授業への積極的参加20%</p> | | | |
| <p><テキスト> 「よくわかる社会的養護内容 第3版」ミネルヴァ書房、2015年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など> 「よくわかる家庭支援論」橋本真紀・山縣文治 ミネルヴァ書房 「機能不全家族」星野仁彦、アートヴィレッジ2007年 「養護内容」徳村蒸、近畿大学教習短期大学1999年</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無</p> | | | |

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 科目名 | 生涯スポーツ | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 平良 章次 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 30 |

<到達目標>
 ・幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができる。
 ・子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。
 ・子どもや障がい者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができる。

<授業の概要>
 体育・スポーツ教育の中核目標である「できる」ことに加え、「わかる」ことや「みんながうまくなる」ことを共通目標とする。特に生涯スポーツの土台となる子どもの運動遊びを追体験することを通して保育者として必要な運動遊びのレパートリーを増やすことでバリエーションの拡げかたを理解することを目指す。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>
 地域における様々なスポーツイベントに自ら参加したり、障がい者や高齢者を対象にしたスポーツイベントにボランティアとして積極的に参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深める。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（3日目） |
|----|-----------|----|-------------------------|
| 1 | 授業概要 | 1 | ウォーミングアップ |
| 2 | ウォーミングアップ | 2 | バスケットボール(試しのゲームとゲーム分析)① |
| 3 | グループ分け | 3 | バスケットボール(試しのゲームとゲーム分析)② |
| 4 | スポーツテスト① | 4 | ルールを工夫したバスケットボール① |
| 5 | スポーツテスト② | 5 | ルールを工夫したバスケットボール② |
| 6 | スポーツテスト③ | 6 | レクリエーションゲーム① |
| 7 | スポーツテスト④ | 7 | レクリエーションゲーム① |
| 8 | スポーツテスト⑤ | 8 | スポーツの意義について① |
| 9 | スポーツテスト⑥ | 9 | スポーツの意義について② |
| 10 | 振り返り | 10 | 振り返り・まとめ |

| 時間 | 授業計画（2日目） | 時間 | |
|----|-----------------------|----|--|
| 1 | ウォーミングアップ | | |
| 2 | ボールを使った遊び① | | |
| 3 | ボールを使った遊び② | | |
| 4 | ボールを使った遊び③ | | |
| 5 | バレーボール(試しのゲームとゲーム分析)① | | |
| 6 | バレーボール(試しのゲームとゲーム分析)② | | |
| 7 | ルールを工夫したバレーボール① | | |
| 8 | ルールを工夫したバレーボール② | | |
| 9 | ルールを工夫したバレーボール③ | | |
| 10 | 振り返り | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

関心・意欲・態度 40%、運動の技能、知識・理解・思考・判断力 30%、提出物 30%

<テキスト>
 「生涯スポーツ・健康科学」

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | | | |
|--|-----------------------|------|--------|-------------------------|--|
| 科目名 | 生涯スポーツ | 学科名 | こども学ぶ科 | | |
| | | 開講時期 | 1年次 | | |
| | | 授業形態 | スクーリング | | |
| 担当者名 | 東江太輝 | 単位数 | 1 | | |
| | | 時間数 | 30 | | |
| <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができる。 ・子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。 ・子どもや障がい者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができる。 | | | | | |
| <p><授業の概要></p> <p>体育・スポーツ教育の中核目標である「できる」ことに加え、「わかる」ことや「みんながうまくなる」ことを共通目標とする。特に生涯スポーツの土台となる子どもの運動遊びを追体験することを通して保育者として必要な運動遊びのレパートリーを増やすことでバリエーションの拡げかたを理解することを目指す。</p> | | | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス></p> <p>地域における様々なスポーツイベントに自ら参加したり、障がい者や高齢者を対象にしたスポーツイベントにボランティアとして積極的に参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深める。</p> | | | | | |
| 時間 | 授業計画（1日目） | | 時間 | 授業計画（3日目） | |
| 1 | 授業概要 | | 1 | ウォーミングアップ | |
| 2 | ウォーミングアップ | | 2 | バスケットボール(試しのゲームとゲーム分析)① | |
| 3 | グループ分け | | 3 | バスケットボール(試しのゲームとゲーム分析)② | |
| 4 | スポーツテスト① | | 4 | ルールを工夫したバスケットボール① | |
| 5 | スポーツテスト② | | 5 | ルールを工夫したバスケットボール② | |
| 6 | スポーツテスト③ | | 6 | レクリエーションゲーム① | |
| 7 | スポーツテスト④ | | 7 | レクリエーションゲーム① | |
| 8 | スポーツテスト⑤ | | 8 | スポーツの意義について① | |
| 9 | スポーツテスト⑥ | | 9 | スポーツの意義について② | |
| 10 | 振り返り | | 10 | 振り返り・まとめ | |
| 時間 | 授業計画（2日目） | | | | |
| 1 | ウォーミングアップ | | | | |
| 2 | ボールを使った遊び① | | | | |
| 3 | ボールを使った遊び② | | | | |
| 4 | ボールを使った遊び③ | | | | |
| 5 | バレーボール(試しのゲームとゲーム分析)① | | | | |
| 6 | バレーボール(試しのゲームとゲーム分析)② | | | | |
| 7 | ルールを工夫したバレーボール① | | | | |
| 8 | ルールを工夫したバレーボール② | | | | |
| 9 | ルールを工夫したバレーボール③ | | | | |
| 10 | 振り返り | | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> <p>関心・意欲・態度 40%、運動の技能、知識・理解・思考・判断力 30%、提出物 30%</p> | | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「生涯スポーツ・健康科学」</p> | | | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> | | | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無</p> | | | | | |

| | | | |
|------|-------|------|--------|
| 科目名 | 健康科学 | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 平良 章次 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について説明することができる。「障害スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での条件整備の在り方について批判的に考えることができる。

<授業の概要>

テキスト、プリント学習、新聞等の切り抜き

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

テキストを熟読すること。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|---------------------------------------|----|------|
| 1 | 第1章 スポーツの概念 1. スポーツの概念の広がり、スポーツの本質的特性 | 16 | |
| 2 | 第2章 社会生活の変化とスポーツ 1. 余暇社会とスポーツ | 17 | |
| 3 | 2. 地域社会とスポーツ | 18 | |
| 4 | 第3章 スポーツ参加の現状と課題 1. 国民のレジャー活動とスポーツ | 19 | |
| 5 | 2. 国民スポーツの発展のために | 20 | |
| 6 | 3. 国民スポーツの発展のために | 21 | |
| 7 | 第4章 健康の概念 1. 健康という言葉 | 22 | |
| 8 | 2. 健康の変遷 | 23 | |
| 9 | 3. WHOの「健康」定義 | 24 | |
| 10 | 第5章 健康・体力と運動 1. 現代社会の健康阻害要因 | 25 | |
| 11 | 2. 運動不足の実態 3. 身体運動と健康 | 26 | |
| 12 | 4. 体力の概念 5. 体力の構成要因 | 27 | |
| 13 | 第6章 生活におけるトレーニング 1. 運動処方 | 28 | |
| 14 | 2. トレーニングの科学的基礎 | 29 | |
| 15 | まとめ | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

レポート・科目終末試験を総合評価します。

<テキスト>

「生涯スポーツ・健康科学」

<参考書・参考資料など>

新聞紙の切り抜きなど

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|--------|
| 科目名 | 健康科学 | 学科名 | こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| 担当者名 | 東江 太輝 | 授業形態 | 講義 |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について説明することができる。「障害スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での条件整備の在り方について批判的に考えることができる。

<授業の概要>

テキスト、プリント学習、新聞等の切り抜き

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

テキストを熟読すること。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|---------------------------------------|----|------|
| 1 | 第1章 スポーツの概念 1. スポーツの概念の広がり、スポーツの本質的特性 | 16 | |
| 2 | 第2章 社会生活の変化とスポーツ 1. 余暇社会とスポーツ | 17 | |
| 3 | 2. 地域社会とスポーツ | 18 | |
| 4 | 第3章 スポーツ参加の現状と課題 1. 国民のレジャー活動とスポーツ | 19 | |
| 5 | 2. 国民スポーツの発展のために | 20 | |
| 6 | 3. 国民スポーツの発展のために | 21 | |
| 7 | 第4章 健康の概念 1. 健康という言葉 | 22 | |
| 8 | 2. 健康の変遷 | 23 | |
| 9 | 3. WHOの「健康」定義 | 24 | |
| 10 | 第5章 健康・体力と運動 1. 現代社会の健康阻害要因 | 25 | |
| 11 | 2. 運動不足の実態 3. 身体運動と健康 | 26 | |
| 12 | 4. 体力の概念 5. 体力の構成要因 | 27 | |
| 13 | 第6章 生活におけるトレーニング 1. 運動処方 | 28 | |
| 14 | 2. トレーニングの科学的基礎 | 29 | |
| 15 | まとめ | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

レポート・科目終末試験を総合評価します。

<テキスト>

「生涯スポーツ・健康科学」

<参考書・参考資料など>

新聞紙の切り抜きなど

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 幼児への特別な支援 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 棚原 恵子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

- ・インクルーシブ教育を含む特別支援教育に関する理念や制度の仕組みを理解する。
- ・特別の支援を必要とする幼児(知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等)の心身の発達と心理的特性および学習の課程を理解する。
- ・特別の支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。
- ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について理解する。
- ・関係機関・家庭と連携して支援体制を構築することの必要性を理解する。

<授業の概要>

障害児保育の歴史、特別支援教育に関する制度の仕組みについて学んだあと、各障害の特性、保育教諭の支援方法について学ぶ。個別の指導計画・個別の支援計画の作成、保護者対応、家庭・学校・地域・専門機関との連携について学ぶ。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

障害に関するニュースや現場の情報等に触れることを通して、幼児への特別な支援への理解を深める。授業で学んだことや自分なりの特別支援教育についてまとめる。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|-----------------------|----|------|
| 1 | 障がい児保育とは何か | 16 | |
| 2 | 障害児保育の仕組み | 17 | |
| 3 | 障がい児の特徴と保育での支援 | 18 | |
| 4 | その他の障害の特徴と保育での支援 | 19 | |
| 5 | 知的障害の特徴と保育での支援 | 20 | |
| 6 | 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援 | 21 | |
| 7 | 注意欠陥・多動性障害の特徴と保育での支援 | 22 | |
| 8 | 学習障害の特徴と保育での支援 | 23 | |
| 9 | 障害児保育の体制づくり | 24 | |
| 10 | インクルーシブ保育とは | 25 | |
| 11 | 保育所・幼稚園での支援体制 | 26 | |
| 12 | 家族への支援 | 27 | |
| 13 | 障がい児へのアセスメント | 28 | |
| 14 | 発達支援の技術 | 29 | |
| 15 | 幼児教育における特別支援教育 | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

授業への積極的参加30%、授業後の振り返り30%、定期試験結果40%

<テキスト>

「よくわかる障害児保育」ミネルバ書房

<参考書・参考資料など>

「基礎から学ぶ障害児保育」小川英彦 編集ミネルヴァ書房

「狼に育てられた子アマラとカマラの養育日記」J,A,Lシング著中野義達・清水知子訳 福村出版

「新訳アヴェロンの野生児ヴィクトールの発達と教育」JMGイタール著中野義達・松田清訳 福村出版

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 障害児保育 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 名幸 啓子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ・障害児保育の対象となる障がいの特徴について理解する。
- ・障害児保育の実際や保護者への支援に関する基礎的な知識を習得する。
- ・小学校への移行や他機関との連携などに関する基礎的な知識を習得する。

<授業内容>

①歴史や概要を確認する。②グループワークを通して子どもへのアプローチを考える。③障がい児に関わる事業所の内容を知ることで療育の大切さを理解する。④グループ活動を通して保護者の気持ちを知りわが子を大切に
する気持ちを理解する。⑤周囲に受け入れられない子どもたちの気持ちを知り、周りに配慮してもらった環境づくりを行う
ことの大切さを理解する。

<学生へのアドバイス>

障がい児を題材とした本を読んだり障がいを取り上げたニュースやテレビ番組に関心を向けておくこと。
保育者として「自分ならどう関わるか」「自分ならどのように支援するか」を考えておくこと。

| 時間 | 授業計画（1日目） | 時間 | 授業計画（2日目） |
|----|--------------------------|----|--------------------------|
| 1 | 障がい児保育について | 1 | 児童発達支援授業所の療育-生活動作と活動の紹介- |
| 2 | 障がい児の支援方法について | 2 | 重症心身児(医療ケア)と母の想い |
| 3 | 子どもたちへのアプローチを考える①グループワーク | 3 | 保護者のアプローチ①グループワーク |
| 4 | 子どもたちへのアプローチを考える②グループワーク | 4 | 保護者のアプローチ②グループワーク |
| 5 | 子どもたちへのアプローチを考える③グループワーク | 5 | 保護者のアプローチ③グループワーク |
| 6 | 子どもたちへのアプローチを考える④グループワーク | 6 | 子へのアプローチ①グループワーク |
| 7 | 子どもたちへのアプローチを考える⑤グループワーク | 7 | 子へのアプローチ②グループワーク |
| 8 | 発表と報告、まとめ | 8 | 発表と報告、まとめ |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

- ①授業への積極的な参加
- ②演習の発表
- ③課題レポート提出

<テキスト>

「よくわかる障害児保育 第2版」ミネルヴァ書房、2017年

<参考書・参考資料など>

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|--|-----------------------------|------|-------------------------|
| 科目名 | 教育課程総論 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 玉城 民子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |
| <p><授業の到達目標> ①教育課程の目的や意義に関して、基本的な理解が深められること。②幼児期の特性をふまえ、幼児教育課程のあり方に対する理解が深められること。③教育課程の編成及び指導計画の作成に対する理解が深められること。</p> | | | |
| <p><授業の概要> 幼児期の教育課程の基準となる幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の理解と法令との関係、教育課程と指導計画との関係等を理解する。</p> | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス> 事前に教科書を読んでおく。事後は、その日学習したプリントを復習し、整理しておく。課題はまじめに取り組み、提出すること。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
| 1 | 乳児期、幼児期の特質 | 16 | 幼児教育の基本① |
| 2 | 幼児期における発達課題と、幼児との向き合い方 | 17 | 幼児教育の基本② |
| 3 | 生涯学習と幼児期の関連について | 18 | 幼児教育の基本③ |
| 4 | 幼児期の教育課程の意義について | 19 | 教育課程の編成について① |
| 5 | 幼児教育の歴史、幼児教育と憲法、各法律との関係について | 20 | 教育課程の編成について② |
| 6 | 幼児教育要領と教育課程との関係について | 21 | 教育課程の編成について③ |
| 7 | 幼稚園教育要領の改訂について | 22 | 幼児期の教育の目的、目標、ねらい・内容、5領域 |
| 8 | 幼保連携型認定こども園教育要領について | 23 | 法律に定める目標と各園の目標について① |
| 9 | これからの幼児教育の方向性、IT時代の保育者の役割 | 24 | 法律に定める目標と各園の目標について② |
| 10 | 幼稚園・保育所・認定こども園の特徴 | 25 | 教育課程の編成と指導計画の作成について① |
| 11 | 幼稚園・保育所・認定こども園の共通点・違い | 26 | 教育課程の編成と指導計画の作成について② |
| 12 | 幼稚園・保育所・認定こども園の在り方 | 27 | 教育課程の編成と指導計画の作成について③ |
| 13 | 幼児期の教育課程に関する法律①幼稚園 | 28 | 教育課程の評価、指導計画の評価について① |
| 14 | 幼児期の教育課程に関する法律②保育所 | 29 | 教育課程の評価、指導計画の評価について② |
| 15 | 幼児期の教育課程に関する法律③幼保連携認定こども園 | 30 | 振り返り・まとめ |
| <p><評価の基準・単位認定の基準> 定期試験70% 課題・意欲・態度など30%</p> | | | |
| <p><テキスト> 「あたらしい幼児教育課程総論」同文書院、2011年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など> 幼稚園教育要領解説、認定こども園解説書</p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------|--|---------------|
| 科目名 | 子どもの食と栄養 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 比屋根 彩野 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |
| <p><到達目標></p> <p>・小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食(保育所給食)、食育の重要性を理解する。</p> | | | |
| <p><授業内容></p> <p>保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解させ、調理の技能の習得を目指す。</p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス></p> <p>・テキストには必ず目を通し、参考文献も何冊か読んでおくこと。 ・実習で学習した内容の定着をはかるための事後学習を行うこと。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
| 1 | 乳児期の授乳栄養について | 1 | 幼児期の栄養について |
| 2 | 調乳実習 | 2 | 幼児食実習 |
| 3 | 離乳栄養について | 3 | 幼児食実習 |
| 4 | 離乳食実習 | 4 | 幼児食実習 |
| 5 | 離乳食実習 | 5 | 間食、手洗いに関する実験 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> <p>・課題・レポートの提出:70%、授業への積極的参加(実習態度):30%</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「子どもの食と栄養」北大路出版、2011年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> <p>「食品成分表」</p> | | | |
| 実務経験の有無 | | <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 | |

| | | | |
|------|----------|------|---------------|
| 科目名 | 子どもの食と栄養 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 比屋根彩野 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

・小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食(保育所給食)、食育の重要性を理解する。

<授業内容>

保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解させ、調理の技能の習得を目指す。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

・食に関する話題を新聞やテレビ、食に関する雑誌に目を向け、関心を高めておくこと。
・授業後に講義と実習との関連をレポートで復習し、提出すること。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|---------------------------|----|------|
| 1 | 食べることとは—小児栄養の特徴と食生活の現状と課題 | 16 | |
| 2 | 栄養素の種類と機能 | 17 | |
| 3 | 食べ物の消化吸収と食事摂取基準 | 18 | |
| 4 | 食品の成分と分類(食品群・食事バランスガイド) | 19 | |
| 5 | 食育基本法、食育の内容 | 20 | |
| 6 | 乳児期栄養と食生活(1)—調乳 | 21 | |
| 7 | 乳児期栄養と食生活(2)—離乳初期・中期 | 22 | |
| 8 | 乳児期栄養と食生活(3)—離乳後期・完了期 | 23 | |
| 9 | 幼児期栄養と食生活(1)—1,2歳児、3-5歳児 | 24 | |
| 10 | 幼児期栄養と食生活(2)—間食、偏食、食欲不振 | 25 | |
| 11 | 幼児期栄養と食生活(3)—幼児の弁当、行事食 | 26 | |
| 12 | 小児期の疾病と食事、障害のある小児の食事 | 27 | |
| 13 | 学童期—思春期の栄養と食生活—肥満、偏食 | 28 | |
| 14 | 妊産婦栄養と食生活 | 29 | |
| 15 | 集団給食演習、衛生管理と食事計画 | 30 | |

<評価の基準・単位認定の基準>

定期試験:40%、課題・レポートの提出:30%、授業への積極的参加:30%

<テキスト>

「新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養」北大路書房、2021年

<参考書・参考資料など>

「食品成分表」

実務経験の有無

有 ・ 無

実務経験の内容

総合病院、健康管理センター、クリニック等栄養業務

| | | | |
|--|-----------------|------|---------------|
| 科目名 | 子ども家庭福祉 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 比屋根 豪 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う。 ・保育者として子どもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を習得する。 | | | |
| <p><授業の概要></p> <p>講義はテキストを主体とする。子どもの主体性や存在、社会とのつながりについて、また、子どもを育てる環境や支援等について学び、今後の学びに必要な基礎的な知識を習得する。また、学びを深めるため、自らの足で情報収集を行う調べ学習(レポート)を課す。</p> | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス></p> | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
| 1 | 現代社会とこども家庭福祉① | 16 | 子ども虐待と児童福祉施設① |
| 2 | 現代社会とこども家庭福祉② | 17 | 子ども虐待と児童福祉施設② |
| 3 | 現代社会とこども家庭福祉③ | 18 | 子ども虐待と児童福祉施設③ |
| 4 | 現代社会とこども家庭福祉④ | 19 | 身近な子育て支援施策① |
| 5 | 現代社会とこども家庭福祉⑤ | 20 | 身近な子育て支援施策② |
| 6 | 現代社会とこども家庭福祉⑥ | 21 | 身近な子育て支援施策③ |
| 7 | こども家庭福祉の歴史① | 22 | 身近な子育て支援施策④ |
| 8 | こども家庭福祉の歴史② | 23 | 身近な子育て支援施策⑤ |
| 9 | こども家庭福祉の歴史③ | 24 | 身近な子育て支援施策⑥ |
| 10 | こども家庭福祉の理念と法律① | 25 | 保育サービス① |
| 11 | こども家庭福祉の理念と法律② | 26 | 保育サービス② |
| 12 | こども家庭福祉の理念と法律③ | 27 | 保育サービス③ |
| 13 | こども家庭福祉の機関と専門職① | 28 | 少子化対策と子育て支援① |
| 14 | こども家庭福祉の機関と専門職② | 29 | 少子化対策と子育て支援② |
| 15 | こども家庭福祉の機関と専門職③ | 30 | 少子化対策と子育て支援③ |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> <p>積極的参加・態度(出席)30%、マメテスト20%、試験50%</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「児童家庭福祉 第3版-子どもと家庭を支援する-」ミネルヴァ書房、2018年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------|------|---------------------|
| 科目名 | 社会的養護 I | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 比屋根 豪 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |
| <p><授業の到達目標> 社会的養護の意義・歴史の変遷の把握を基盤に、児童の人権擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状および課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達支援のあり方について考察する。</p> | | | |
| <p><授業の概要> テキストを中心にDVD等の教材を使用して進める。「養護を必要とする子ども」について考察し、その関係する機関、法律、制度、施設等について理解する。また、「子ども」に対する「大人」や「社会」の在り方についての考察も行う。</p> | | | |
| <p><事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス> 「児童家庭福祉」の学習を踏まえ「子ども」の「幸せ」について自身の考えをまとめる。「子ども」の視点は勿論、「親」や「大人」の視点からも「なぜ、養護が必要な子ども」が生まれるのか考える。</p> | | | |
| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
| 1 | 社会的養護とは何か | 16 | 家庭擁護と施設擁護①(家庭擁護) |
| 2 | 社会的養護の基本理念 | 17 | 家庭擁護と施設擁護②(施設擁護) |
| 3 | 社会的養護の原理① | 18 | 家庭擁護と施設擁護③(共通点・相違点) |
| 4 | 社会的養護の原理② | 19 | 社会的養護に関わる専門職 |
| 5 | 社会的養護の歴史①(イギリス・アメリカ) | 20 | 社会的養護に関する社会的状況 |
| 6 | 社会的養護の歴史②(日本) | 21 | 施設等の運営管理(社会福祉法人) |
| 7 | 子どもの権利擁護 | 22 | 施設等の運営管理(利用類型) |
| 8 | 社会的養護における虐待 | 23 | 虐待防止の現状 |
| 9 | 社会的養護の基本原則 | 24 | 虐待防止の課題 |
| 10 | 社会的養護における保育士等の倫理と責務 | 25 | 施設養護における保育士の役割 |
| 11 | 社会的養護の制度の根幹(措置制度) | 26 | 社会的養護と地域福祉 |
| 12 | 社会的養護の関係する法制度 | 27 | 施設の地域貢献 |
| 13 | 社会的養護とソーシャルワーク | 28 | 施設における家族支援 |
| 14 | ソーシャルワーク視点からのアプローチ | 29 | 社会的養護の課題 |
| 15 | 社会的養護の対象と支援のあり方 | 30 | まとめ(質疑) |
| <p><評価の基準・単位認定の基準> 試験50% 授業姿勢30% 提出物20%</p> | | | |
| <p><テキスト> 「社会的養護 I 新・基本保育シリーズ6」中央法規出版、2019年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 子育て支援 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 比屋根 豪 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

この科目は、将来において保育士を目指す受講生にとって必要とされる子育て支援・相談援助活動(社会福祉援助技術)の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助過程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身につけることを目標とします。

<授業内容>

・相談援助活動の実際に触れながら学習を深める。座学を軸に、県内で起きた児童虐待の事例についてのグループ討議、援助活動を行う「相談員」にスポットを当てたドキュメンタリー視聴、自らの課題を他者へ伝えるロールプレイも入れながら授業展開する。

<学生へのアドバイス>

親の気持ちを理解する事が重要。事例の親がどのような気持ちで子育てをしていたのか。また、どのようなサポートを必要としていたのかについて深く考える。子育てをする親を孤立させない仕組みについて自由に発想する事で相談援助が見えてきます。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|----------------------|----|------------------------|
| 1 | 県内で起きた児童虐待事例の理解 | 1 | ソーシャルワーク③(バISTEックの7原則) |
| 2 | 児童虐待事例の課題整理・背景・資源の考察 | 2 | ソーシャルワーク④(バISTEックの7原則) |
| 3 | ソーシャルワークとは(事例を通して) | 3 | グループワーク①(事例検討の解説) |
| 4 | ソーシャルワークの体系 | 4 | グループワーク②(事例検討) |
| 5 | ソーシャルワーク①(直接援助技術) | 5 | グループワーク③(事例検討) |
| 6 | ソーシャルワーク②(間接援助技術) | 6 | グループワーク④(事例検討) |
| 7 | 相談援助の実際(DVD視聴) | 7 | グループワーク振り返り(全体) |
| 8 | ロールプレイ(話し手・受け手について) | 8 | まとめ(理解と気づき) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

・授業姿勢(グループワーク、ロールプレイ等演習70%、提出物30%)

<テキスト>

「四訂 社会福祉の理論と実際」 中央法規出版、2007年

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------------|------|---------------|
| 科目名 | 保育実習事前指導 I (施設) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 比屋根 豪 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ・保育実習(施設)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。
- ・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。
- ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学修目標を明確にする。

<授業内容>

・障害関係施設での実習が多い為「共生社会」をキーワードに、実習の目的を理解する。
 実習施設は社会的どのような役割をはたしているのか、また、利用している人はどのようなニーズから施設を利用しているのか等の視点から学習を展開する。

<学生へのアドバイス>

将来、自身が「障害」のある子の担任になったり、その親になる可能性がある事を理解する事で「社会は様々な人が共存している」と実感できます。「障害」のある子もない子と一緒に同じように成長できる社会づくりの視点を持つ事が大切です。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|--------------|----|---------------------|
| 1 | 福祉施設についての理解① | 1 | 保育と施設実習について① |
| 2 | 福祉施設についての理解② | 2 | 保育と施設実習について② |
| 3 | 「障害」理解① | 3 | 実習での諸注意①(オリエンテーション) |
| 4 | 「障害」理解② | 4 | 実習での諸注意②(実習中) |
| 5 | 「障害」理解③ | 5 | 実習での諸注意③(実習中) |
| 6 | 実習施設の機能と役割① | 6 | 実習での諸注意④(実習終了後) |
| 7 | 実習施設の機能と役割② | 7 | 実習日誌の記入について① |
| 8 | 実習施設の機能と役割③ | 8 | 実習日誌の記入について② |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

- ・授業姿勢 (積極性50%、(発表・質問等)、提出物50%)

<テキスト>

「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院、2018年

<参考書・参考資料など>

- ・「実習日誌」

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 保育実習事前指導Ⅰ | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| 担当者名 | 比屋根 るり子 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 7、5 |

<到達目標>

- ・保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。
- ・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。
- ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学修目標を明確にする。

<授業内容>

- ・保育実習に向けての心構え。(意義・目的・内容について)
- ・実習を通して保育観や子ども理解を深め、実践的に学ぶ。地域社会とのつながり等

<学生へのアドバイス>

- ・オリエンテーションのポイント。(園の保育理念、方針の理解が大切)
- ・保育園の一日(デイリープログラム)を理解。イメージを広げて取り組む。

※(参考資料を適宜配布します)

| 時間 | 授業計画 (1日目) | | |
|----|----------------------------|--|--|
| 1 | はじめまして(自己紹介)笑顔で挨拶が基本 | | |
| 2 | 実習の目的～心構え(意義・目的・内容) | | |
| 3 | オリエンテーションのポイント(園の理念・方針の理解) | | |
| 4 | 保育観や子ども理解を深め実践的に学ぶ | | |
| 5 | 保育者としての態度、保育技能を身に付ける | | |
| 6 | 積極的な質疑応答、提出物厳守 | | |
| 7 | 実習日誌・指導案の作成(ねらい・目標の記入) | | |
| | 誤字脱字に注意。表現方法、提出前に再確認 | | |
| 8 | 初日から最終日までベストの状態で行く | | |
| | 心を込めて尽くす(諸準備・確認の大切さ学ぶ) | | |
| 9 | 危機管理・安全面に細心の注意を払い実習を | | |
| | 行う「片付け」の活動指導も大切な保育活動 | | |
| | として理解する(時間配分等に注意する) | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

- ・積極的な授業への参加。(理論的学び、実習の意義、目標を定める)態度。
- ・教科で学習した内容を基盤に子ども理解、保育所理解、保護者支援等を深める。
- ・日誌や指導計画案の記録の仕方。

<テキスト>

「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院、2018年

<参考書・参考資料など>

- ・保育保育指針・解説書「平成30年」厚生労働省 フレーベル館
- ・教育・保育実習 安心ガイド 阿部恵・鈴木みゆき・編・著 ひかりのくに

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 保育実習事前指導Ⅱ | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 比屋根 るり子 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 7.5 |

<到達目標>
 ・「保育実習事前指導」「保育実習(保育所)」、またはその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。

・指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。

・保育士として自己の課題を明確化する。

<授業内容>
 保育実習での自己評価と課題・今後の学習目標について再確認する。それに基づいて具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。更に「保育実習Ⅱ」に関する目的を明確にし、保育実習Ⅱの終了後、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。

<学生へのアドバイス>
 振り返りと、次回の実習に向けた自己課題を明確にする。実習記録を準備しておく。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | |
|----|---|----|--|
| 1 | 1日目の理論を振りかえり、保育園のイメージを上げ、実践の学びをする。 | | |
| 2 | 絵本、紙芝居のよみきかせ、手、うたあそび 集団ふれあいあそび | | |
| 3 | 製作(自己紹介、パネル、ペープサート、 エプロン、手袋シアター等) | | |
| 4 | グループ発表(場慣れ、声かけ、導入等を学ぶ) 誕生会、ミニイベントの出し物の依頼に応える | | |
| 5 | ”ゆとり”を持って、前準備や確認の大切さを 習慣つける。 | | |
| 6 | 日々の保育教材を1つ、2つ準備用意する | | |
| 7 | まとめ、2日間の学びの感想レポート、指導 計画案を提出(評価対象) | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>
 ・積極的な授業への参加。(理論的学び、実習の意義、目標を定める)態度。
 ・教科で学習した内容を基盤に子ども理解、保育所理解、保護者支援等を深める。
 ・日誌や指導計画案の記録の仕方。

<テキスト>
 「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院、2018年

<参考書・参考資料など>
 ・保育保育指針・解説書「平成30年」厚生労働省 フレーベル館
 ・教育・保育実習 安心ガイド 阿部恵・鈴木みゆき・編・著 ひかりのくに

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 科目名 | 保育の心理学 | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 福里磨美 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

保育者として乳幼児期の子どもを理解するためには、「生涯発達」の視点は重要です。保育者としてかかわることになる子どもたちの精神発達の原理や道筋を理解して、子どもたちのその後の発達像を思い描くことで、「今」の子どもたちの発達にとって必要な援助が明らかになるでしょう。

発達の基本的知識や子どもの発達の特徴を学び、保育者として重要な「見通し」をもった発達の支援が実践できるようになることを目標とします。

<授業の概要>

乳幼児期に培われる強く豊かな根っこや太い幹は、子ども達の未来(学童期・思春期・成人期)に、いくつもの花を咲かせることにつながり、生涯にわたる「心の支え」や「生きる力」になります。つまり、皆さんはヒトがヒトとして成長するため、最も重要な根っこや幹を育てる乳幼児保育に携わる専門家になるのです。

本講義では、様々な問いに対し答えていくワークを通して、発達心理学の諸理論の知見を学ぶことで、

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

【予習】講義前にシラバスを記載のキーワードを確認すること。また、事前に、各講義のキーワードから連想することをメモすることをお勧めします。【復習】講義後に、講義の感想をミニレポートし、簡単なキーワードテストを行います。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|------------------------------|----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション: 授業の狙い、心理学の楽しさに触れる | 16 | ヒトの発達過程⑥: 児童期～ピアジェの発達段階 |
| 2 | 発達心理学とは: 人として生きる、ライフラインと発達課題 | 17 | ヒトの発達過程⑥: 児童期～記憶について |
| 3 | 発達心理学とは②: 遺伝と環境、生物学的システム | 18 | ヒトの発達過程⑥: 児童期～動機づけについて |
| 4 | ヒトの発達過程①: 胎児期・新生児期 | 19 | ヒトの発達過程⑥: 思春期～自己中心性 |
| 5 | ヒトの発達過程②: 乳児期 | 20 | ヒトの発達過程⑥: 思春期～友人関係・親子関係 |
| 6 | ヒトの発達過程②: 乳児期～アタッチメントについて | 21 | ヒトの発達過程⑥: 思春期～アイデンティティ I |
| 7 | ヒトの発達過程③: 幼児期～身体的機能・運動的機能 | 22 | ヒトの発達過程⑦: 成人期～アイデンティティ II |
| 8 | ヒトの発達過程③: 幼児期～幼児の視界を体験しよう | 23 | ヒトの発達過程⑦: 成人期～職業選択と結婚 |
| 9 | ヒトの発達過程③: 幼児期～心の成長、自我の芽生え | 24 | ヒトの発達過程⑧: 成人期～親としての発達 |
| 10 | ヒトの発達過程④: 言葉が芽生える過程(乳児期) | 25 | ヒトの発達過程⑧: 成人期～エイジズムと加齢変化 |
| 11 | ヒトの発達過程④: 言葉が育つ過程(幼児期) | 26 | ヒトの発達過程⑧: エリクソンの発達段階 |
| 12 | ヒトの発達過程④: 言葉が育つ過程(幼児期・児童期) | 27 | これまでの振り返り |
| 13 | ヒトの発達過程⑤: 自我の発達と他者との関わり | 28 | 発達は十人十色～発達障害の基礎 |
| 14 | ヒトの発達過程⑤: 自己制御の発達 | 29 | 発達障がいの子、疑われる子への支援について |
| 15 | 遊びの発達: 遊びの発達と保育士の関わりについて | 30 | 発達支援の現場から～乳幼児健診・保育所巡回 |

<評価の基準・単位認定の基準>

・期末筆記試験: 50% ・FBテスト(授業ごとに行うキーワードテスト): 40% ・授業への積極的参加等 10%

<テキスト>

「問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学」株式会社 有斐閣

<参考書・参考資料など>

特になし

実務経験の有無 有 ・ 無

実務経験の内容 保育所巡回指導・乳幼児健診・健診後事後教室・発達検査など

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 科目名 | 保育の心理学 | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 勝連 雅美 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 |

<授業の到達目標>

保育者として乳幼児期の子どもを理解するためには、「生涯発達」の視点は重要です。保育者としてかわかることになる子どもたちの精神発達の原理や道筋を理解して、子どもたちのその後の発達像を思い描くことで、「今」の子どもたちの発達にとって必要な援助が明らかになるでしょう。

発達の基本的知識や子どもの発達の特徴を学び、保育者として重要な「見通し」をもった発達の支援が実践できるようになることを目標とします。

<授業の概要>

人の誕生から老年期までの生涯発達のプロセスと現象を心理学的観点から理解する。それらを自分の経験や日常生活での観察と照らし合わせることで、自己理解や周りの人間関係を理解し、大切にすることができる。

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

授業では、人の心と関連している身近な出来事や現象を“発達心理学”の視点から多角的にとらえて、人の発達に関心を持ち、自分が興味のあることや楽しさを発見し、“自分ごと”として主体的に学んで欲しいと思います。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|---------------------------|----|-------------------|
| 1 | オリエンテーション:発達とは?自分の歴史を振り返る | 16 | 児童期の発達①仲間の中での育ち |
| 2 | 自分の歴史を振り返る | 17 | 児童期の発達②学校での学び |
| 3 | 発達のとらえ方 | 18 | 児童期の発達②学校での学び |
| 4 | 発達のとらえ方 | 19 | 青年期の発達①子どもからの卒業 |
| 5 | 胎児期～乳児期の発達① | 20 | 青年期の発達①子どもからの卒業 |
| 6 | 胎児期～乳児期の発達① | 21 | 青年期の発達②大人になるために |
| 7 | 胎児期～乳児期の発達② | 22 | 青年期の発達②大人になるために |
| 8 | 胎児期～乳児期の発達② | 23 | 成人期の発達:関わりの中で成熟する |
| 9 | 乳幼児期の発達:コミュニケーションと人間関係の発達 | 24 | 成人期の発達:関わりの中で成熟する |
| 10 | 乳幼児期の発達:コミュニケーションと人間関係の発達 | 25 | 高齢期の発達:人生を振りかえる |
| 11 | 幼児期の発達①言語と遊びの発達 | 26 | 高齢期の発達:人生を振りかえる |
| 12 | 幼児期の発達①言語と遊びの発達 | 27 | 発達と臨床① |
| 13 | 幼児期の発達②関わりの中で育まれる自己 | 28 | 発達と臨床① |
| 14 | 幼児期の発達②関わりの中で育まれる自己 | 29 | 発達と臨床②、授業の振り返り |
| 15 | 児童期の発達①仲間の中での育ち | 30 | 発達と臨床②、授業の振り返り |

筆記試験:40%、基礎知識に関するミニレポートや課題など30%、授業への積極的参加30%

<テキスト>

「問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学」株式会社 有斐閣

<参考書・参考資料など>

使用しない。必要な資料を配布する。

実務経験の有無 有・無

実務経験の内容

| | | | |
|------|-----------|------|---------------|
| 科目名 | 劇あそび(指導法) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| 担当者名 | 金城 小百合 | 授業形態 | スクーリング |
| | | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<到達目標>

- ・領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。
- ・子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。
- ・子どもの表現を育てる実践力と指導法を身につける。

<授業内容>

領域「表現」を観点に、発達段階に応じたこどもの遊び(ごっこ、劇遊び)の内容と意義について学習する。伴う表現活動(歌う、演奏する、踊るなど)の演習課題を通して、感じたり、考えたり、想像したり、想像する力を養う。

<学生へのアドバイス>

遊びの中で表現する楽しさを身に付ける。相手をよく見て学び、関心を持つこと。表現することに意味付け、その楽しさを伝えられるようにする。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|---------------------------------|----|---------------------|
| 1 | 領域「表現」の狙いと内容 | 1 | 幼児の音楽表現①(リズム・歌詞) |
| 2 | 身振り表現活動の発展と指導法・活動評価の考 | 2 | 幼児の音楽表現①(情報機器を活用して) |
| 3 | 言葉を通し、声を出し体を動かし表現する | 3 | 劇遊びの指導計画立案の要点(課題説明) |
| 4 | 身振り表現の発達 0~2歳児 | 4 | 劇遊びの指導案の作成 |
| 5 | 身振り表現の発達 3歳児、4歳児 | 5 | 課題の創作(グループワーク) |
| 6 | 身振り表現の発達 5歳児 | 6 | グループ発表と鑑賞 |
| 7 | 幼児の音楽表現(保育現場での音楽・リトミック) | 7 | グループ発表の振り返り |
| 8 | 劇遊びにおける観点(イメージの実現・環境の設定・人との関わり) | 8 | まとめ・表現を育てる保育 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

授業への積極的参加30% 課題等小レポートの提出、作品発表70%

<テキスト>

<参考書・参考資料など>

適宜資料配布

実務経験の有無

有 ・ 無

| | | | |
|------|-------|------|---------------|
| 科目名 | 幼児と健康 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 1年次 |
| | | 授業形態 | スクーリング |
| 担当者名 | 與那覇昂 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 |

<授業の到達目標>

「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明できる。各種運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる。運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。

<授業の概要>

幼児体育(なわとび、ボール、体育器具等)の幼児への指導法及び知識、補助の実技

<事前学習及び事後学習>・<学生へのアドバイス>・<レポート作成上のアドバイス>

現場で活用している知識、指導法を教えてください。一つでも多くのものを自分のものにして下さい。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|----------------|----|--------------------|
| 1 | 幼児体育について | 1 | ミキシング② |
| 2 | ミキシング | 2 | 体育器具①【前転補助】試験 |
| 3 | なわとび①(大縄跳び) | 3 | 体育器具②【平均台渡り補助】試験 |
| 4 | なわとび②(個人縄跳び) | 4 | 体育器具③【鉄棒指導】 |
| 5 | ボール遊び①(ドッチボール) | 5 | 体育器具④【跳び箱指導及び補助】試験 |
| 6 | ボール遊び②(サッカー) | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<評価の基準・単位認定の基準>

・授業への積極的参加 30%~50% ・試験での評価 70%~50%

<テキスト>

<参考書・参考資料など>

実務経験の有無 有 ・ 無

| | | | |
|------|---------|------|---------------|
| 科目名 | 言葉(指導法) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年前期 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名 | 保育科職員 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15コマ |

<到達目標>

- ①人間にとっての言葉(言語)の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。
- ②子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもの関わり方を身に付け、実践できる。
- ③保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる。

<授業内容>

幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の必修科目であると共に、保育科卒業必須科目である。『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもの関わり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身に付けることを目指す。グループワークも行う。

<学生へのアドバイス>

事前に『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』保育内容・「言葉」の箇所に通しておくこと。

| 時間 | 授業計画 (1日目) | 時間 | 授業計画 (2日目) |
|----|-----------------------------|----|---------------------|
| 1 | 人間にとって言葉とはなにか | 1 | 配慮を必要とする子どもの言葉と支援 |
| 2 | 言語獲得の諸理論 | 2 | 言葉を通した楽しい関わり |
| 3 | 保育内容・言葉を理解する視点としてのコミュニケーション | 3 | 子どもの言葉をひきだす保育者の関わり |
| 4 | 保育内容・言葉「ねらい」の理解 | 4 | 子どもの表現力・文字への気づき |
| 5 | 保育内容・言葉「内容」の理解 | 5 | 子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践 |
| 6 | | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<成績評価・単位認定基準>

試験60%、発表20%、レポート20%

<参考資料等>

『保育所保育指針解説』2018年
『幼稚園教育要領解説』2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2017年

<その他>

実務経験の有無 有・無

実務経験の内容

| | | | |
|---|-------------|------|---------------|
| 科目名 | 保育実習 I (施設) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 2年次 |
| | | 授業形態 | 実習 |
| 担当者名 | 比屋根 豪 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 10日間 |
| <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 実践を込めて、保育の技術、能力を向上させる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 | | | |
| <p><授業内容></p> <p>特別な支援を必要とする子どもについて知り、個別の関わりや対応を適切に行うことの必要性を理解すると共にどのような実習にしたいか実習の目的を具体化する。</p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス></p> <p>実習に向けての気持ち作りや日常的に体調管理を整える。</p> | | | |
| 実習計画 | | | |
| ①福祉の専門職としての保育士として生活能力および治療的な役割も求められることから職務に必要な知識や技術を身に付ける | | | |
| ②職員の職務およびかかわり方を通して連携の方法やチームワークの実際について学ぶ | | | |
| ③日誌に記録し、振り返り改善に努める | | | |
| | | | |
| | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院、2018年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> | | | |
| <p>実務経験の有無 有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|---|------------|------|---------------|
| 科目名 | 保育実習Ⅰ(保育所) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | 実習 |
| 担当者名 | 平良 恵利子 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 10日間 |
| <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 | | | |
| <p><授業内容></p> <p>「保育実習」は保育士資格を習得するために保育施設で行う。①保育所の1日の流れを知る。②子ども理解を深める。③保育士の業務内容を体験的に学ぶ。④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ。⑤保育士を志す者として自覚を高める</p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス></p> <p>手遊びや絵本の読み聞かせなど積極的に行えるよう、保育実習に向けた準備をする。各自の実習へのねらいをたて目標を明確にする。</p> | | | |
| 実習計画 | | | |
| 保育実習Ⅰでは保育所における保育がどのようになされているかを理解する | | | |
| 1、保育所の内容、機能について理解する。(保育所の1日の流れやプログラムの理解) | | | |
| 2、保育所における子どもの理解。(年齢、月齢ごとの子どもの発達とその特徴など) | | | |
| 3、保育所における保育士の業務内容や役割などを理解する。 | | | |
| 4、日誌や指導案の書き方を学ぶ。 | | | |
| 担当保育士の指導や助言に従い、質問や疑問点はその都度伺い、実習へは積極的に参加 | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院、2018年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/>有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|--|------------|------|---------------|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ(保育所) | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| 担当者名 | 平良 恵利子 | 授業形態 | 実習 |
| | | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 10日間 |
| <p><到達目標> 「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させ、子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。</p> | | | |
| <p><授業内容> 保育実習Ⅱでは、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育実践、更に、子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。ただし、「保育実習Ⅰ」を終了しておかなければならない。</p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス> 手遊びや絵本の読み聞かせなど積極的に行えるよう、保育実習に向けた準備をする。各自の実習へのねらいをたて目標を明確にする。</p> | | | |
| 実習計画 | | | |
| 保育実習Ⅱでは保育士としての実践力を高めていくよう努める | | | |
| 1、子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う | | | |
| 2、その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する。 | | | |
| 3、問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する。 | | | |
| 4、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。(部分実習・全日実習) | | | |
| 5、保育士としての自己課題を明確にする。 | | | |
| 実習期間中は積極的姿勢で行う。部分実習、責任実習においても実践力を養うよう努める | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準> 実習日誌・事後レポートなどの提出物50% 実習園の評価30% 勤務状況など20%</p> | | | |
| <p><テキスト> 「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院、2018年</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など> 「これだけはしっておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」わかば社</p> | | | |
| 実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 | | | |

| | | | |
|--|------|------|---------------|
| 科目名 | 教育実習 | 学科名 | こども保育科・こども学ぶ科 |
| | | 開講時期 | 3年次 |
| | | 授業形態 | 実習 |
| 担当者名 | 今 秀子 | 単位数 | 4 |
| | | 時間数 | 20日間 |
| <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 ・幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 ・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。 | | | |
| <p><授業内容></p> <p>専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために実習では観察、参加実習、部分実習、責任実習を行うこと。</p> | | | |
| <p><学生へのアドバイス></p> <p>実習で使用する手遊びやゲーム遊びなどのデパートリーを増やしておこう。 配属クラスに応じた指導計画を作成できるようにしておく。</p> | | | |
| <h3>実習計画</h3> | | | |
| <p>①幼稚園における1日の生活・活動の流れと、活動内容の概要を知る②遊びや生活場面での園児の</p> | | | |
| <p>②遊びや生活面での園児の行動を観察し、必要に応じてかかわる</p> | | | |
| <p>③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応を指導教諭の助言と指導を受けながら積極的に行う。</p> | | | |
| <p><評価の基準・単位認定の基準></p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「教育実習事前指導」</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料など></p> | | | |
| <p>実務経験の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p> | | | |

| | | | |
|------|--------------|------|--------|
| 科目名 | 児童文化 I | 学科名 | こども保育科 |
| | | 開講時期 | 2年前期 |
| 担当者名 | 知花 涼子 他保育科職員 | 授業形態 | 講義 |
| | | 単位数 | 4 |
| | | 時間数 | 60コマ |

<到達目標>

各グループで児童文化財を製作し、こどもたちの前で実演できるレベルになる。

<授業内容>

各グループ、児童文化活動の演目を話し合っ決めて。演目には大型絵本、手遊び、フィンガーダンス、手話ソング、ダンスが含まれ、リーダーを中心にグループ丸となって取り組んでいく。

<学生へのアドバイス>

演目(曲など)がグループで同じものがないように調整をしてください。また、保育園によってはキャラクターものの実演ができないところもあります。臨機応変に対応できるようにしてください。全体的にグループでの取り組みが中心となります。教員が回りながら指導を行います。相談は随時受け付けます。

| 時間 | 授業計画 | 時間 | 授業計画 |
|----|-----------------------|----|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション | 31 | グループ活動(児童文化財の製作と演目練習) |
| 2 | グループ分け | 32 | グループ活動(フィンガーダンスの確認) |
| 3 | 児童文化活動の演目について | 33 | グループ活動(フィンガーダンスの確認) |
| 4 | 演目を決める① | 34 | グループ活動(大型絵本の確認) |
| 5 | 演目を決める② | 35 | グループ活動(大型絵本の確認) |
| 6 | 演目を決める③ | 36 | グループ活動(ダンスの確認) |
| 7 | 各グループの演目発表 | 37 | グループ活動(ダンスの確認) |
| 8 | グループ活動(児童文化財の製作) | 38 | グループ活動(手話ソングの確認) |
| 9 | グループ活動(児童文化財の製作) | 39 | グループ活動(手話ソングの確認) |
| 10 | グループ活動(児童文化財の製作) | 40 | グループ活動(手遊びの確認) |
| 11 | グループ活動(児童文化財の製作) | 41 | グループ活動(手遊びの確認) |
| 12 | グループ活動(児童文化財の製作) | 42 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 13 | グループ活動(児童文化財の製作) | 43 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 14 | グループ活動(児童文化財の製作) | 44 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 15 | グループ活動(児童文化財の製作) | 45 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 16 | 状況報告会 | 46 | 1回目鑑賞会&フィードバック |
| 17 | グループ活動(児童文化財の製作) | 47 | 1回目鑑賞会&フィードバック |
| 18 | グループ活動(児童文化財の製作) | 48 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 19 | グループ活動(児童文化財の製作) | 49 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 20 | グループ活動(児童文化財の製作) | 50 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 21 | グループ活動(児童文化財の製作) | 51 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 22 | グループ活動(児童文化財の製作) | 52 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 23 | グループ活動(児童文化財の製作) | 53 | 2回目鑑賞会&フィードバック |
| 24 | 状況報告会 | 54 | 2回目鑑賞会&フィードバック |
| 25 | グループ活動(児童文化財の製作と演目練習) | 55 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 26 | グループ活動(児童文化財の製作と演目練習) | 56 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 27 | グループ活動(児童文化財の製作と演目練習) | 57 | グループ活動(演目すべての練習) |
| 28 | グループ活動(児童文化財の製作と演目練習) | 58 | テスト① |
| 29 | グループ活動(児童文化財の製作と演目練習) | 59 | テスト② |
| 30 | グループ活動(児童文化財の製作と演目練習) | 60 | 全体鑑賞会&フィードバック |

<成績評価・単位認定基準>

学習意欲、積極的参加50%、個人演目25%、グループ演目25%

<参考資料等>

適宜プリントを配布します

<その他>

実務経験の有無

有 ・ 無

実務経験の内容